

## 平成 30 年第 2 回津南町議会定例会会議録

( 7 月 18 日 )

招集告示年月日		平成 30 年 7 月 9 日		招集場所		津南町役場議場	
開会	平成 30 年 7 月 18 日 午前 10 時 00 分			閉会	平成 30 年 7 月 20 日 午後 0 時 00 分		
応招・ 不応招  出席・ 欠席の別	議席番号	議員名	応招等の別	議席番号	議員名	応招等の別	
	1 番	半 戸 義 昭	応・出	8 番	津 端 眞 一	応・出	
	2 番	村 山 道 明	応・出	9 番	大 平 謙 一	応・出	
	3 番	石 田 タ マ エ	応・出	10 番	河 田 強 一	応・出	
	4 番	風 卷 光 明	応・出	11 番	藤 ノ 木 浩 子	応・出	
	5 番	筒 井 秀 樹	応・出	12 番	吉 野 徹	応・出	
	6 番	栞 原 洋 子	応・出	13 番	恩 田 稔	応・出	
	7 番	中 山 弘	応・出	14 番	草 津 進	応・出	
地方自治法 第 121 条の 規定により 説明のため 出席した者 の職・氏名 (出席者： ○印)	職 名	氏 名	出席者	職 名	氏 名	出席者	
	町 長	桑 原 悠	○	税務町民課長	高 橋 隆 明	○	
	副 町 長	小 野 塚 均	○	地域振興課長 農業委員会事務局長	村 山 詳 吾	○	
	教 育 長	桑 原 正	○	建設課長	柳 澤 康 義	○	
	農業委員会長	涌 井 直	○	教育委員会教育次長	上 村 栄 一	○	
	監 査 委 員	藤 ノ 木 勤	○	会計管理者	板 場 康 之	○	
	総務課長	根 津 和 博	○	病院事務長	桑 原 次 郎	○	
	福祉保健課長	高 橋 秀 幸	○				
職務のため出席した者の職・氏名			議会事務局長	高 橋 昌 史	班長	石 沢 和 也	
会議録署名議員		6 番	栞 原 洋 子		12 番	吉 野 徹	

〔付議事件〕

(7月18日)

- 日程第1 議席の指定
- 日程第2 会議録署名議員の指名
- 日程第3 議会運営委員会の報告
- 日程第4 会期の決定
- 日程第5 諸般の報告
- 日程第6 町長所信表明
- 日程第7 一般質問

## 議長の開議宣告

議長（草津 進）

ただいまから平成 30 年第 2 回津南町議会定例会を開会し、これより本日の会議を開きます。

—（午前 10 時 00 分）—

## 議事日程の報告

議長（草津 進）

本日の議事日程は、お手元に配布したとおりです。

### 日 程 第 1

#### 議席の指定

今回、新たに当選されました筒井秀樹君の議席を会議規則第 4 条第 2 項の規定により、5 番に指定いたします。

### 日 程 第 2

#### 会議録署名議員の指名

議長（草津 進）

会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第 125 条の規定により、本定例会の会議録署名議員に、6 番、栗原洋子議員、12 番、吉野徹議員の両議員を指名いたします。

### 日 程 第 3

#### 議会運営委員会の報告

議長（草津 進）

議会運営委員会の報告を行います。

本定例会の運営について議会運営委員会を開いておりますので、議会運営委員長から報告をいただきます。

議長（草津 進）

議会運営委員長。

議会運営委員長（中山 弘）

議会運営委員会の報告をいたします。

7 月 10 日に本定例会の会期、議事日程等議会運営に関する事項について議会運営委員会を開催しましたので、調査結果を御報告いたします。一般質問者は 8 名です。議案

等 11 件、請願・陳情等 2 件、発議案等 2 件の予定です。本定例会の会期は、7 月 18 日、本日から 7 月 20 日まで 3 日間といたしました。本日は、一般質問者 4 名です。明日、19 日も一般質問者は 4 名です。翌 20 日は、議案、請願・陳情等、発議案等を審議いたします。

なお、開会中はインターネット中継を行っております。質問・質疑等に当たっては、申合せに従って簡潔明瞭に行い、不適切な発言のないようお願いいたします。

以上です。

#### 日 程 第 4 会期の決定

議長（草津 進）

会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期は、本日から 7 月 20 日までの 3 日間としたいと思います。

これに御異議ありませんか。 —（異議なしの声）—

異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は、本日から 7 月 20 日までの 3 日間と決定いたしました。

#### 日 程 第 5 諸般の報告

議長（草津 進）

諸般の報告を行います。

これまでに受理した請願は、お手元に配布した写しのとおりです。請願第 2 号「『中条第二病院・老健きたはら』の存続を求める意見書及び要請書の提出の請願」、請願第 3 号「30 人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度 2 分の 1 復元に係る意見書の採択を求める請願」を総文福祉常任委員会に付託いたしました。

次に、地方自治法第 199 条の規定により、定期監査の監査報告書がお手元に配布したとおり提出されましたので報告いたします。

次に、地方自治法第 235 条の 2 第 3 項の規定により、例月出納検査の結果報告書がお手元に配布したとおり提出されましたので報告いたします。

以上で諸般の報告を終了いたします。

#### 日 程 第 6 町長所信表明

議長（草津 進）

町長の所信表明を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

平成30年津南町議会第2回定例会を開会するに当たり、所信を申し上げます。

私こと、このたび津南町長選挙におきまして、町民の皆様から温かい御支援をいただき、第6代の津南町長という重責を担わせていただくことになりました。町政におきまして初の女性町長となります。

私は、二人の子どもを産み育てる母親です。津南の子どもたちが閉塞感漂う町で育つのではなく、希望や可能性を感じる町で育ってほしいという思いがございませう。春になると、多くの若者が進学や就職のため町を出て行きます。彼ら彼女らの心の中にある「津南」が魅力を増し、若者たちが津南に帰りたい、住み続けたいと思える町にしなければなりません。

かつて、大きな時代の流れの中において、人手を求めていた都市部に多くの若者が労働力として吸収されていった結果、戦後復興を果たし、高度成長が実現しました。しかし、都市への過度な集中が、国としてとてもぜい弱であることを私自身、東日本大震災を経験し、目の当たりにしました。津南のような町を豊かに守っていく先に、この国の明るい未来があると考えております。

これから、津南町の課題の中で、取組や発想の転換が遅れてきた部分を根っこから洗い、一つ一つ道筋をつけ、町民の生活の改善をしていきます。これから津南町に生まれる小さな命も含め、一万町民の生活を守っていく強い覚悟です。

私は、自らが訴える思いを前に進めるために、「希望と愛、参加できるまちづくり～未来をつくる子どもたちのためにいま、立ち上がろう～」という政策を訴えてまいりました。

「希望」、「愛」、「参加」の三つの大きな柱を軸に、私の所信の一端を申し述べます。

第一の柱は、「希望のまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「大規模農家も小規模農家も共存共栄、もうかる農業」です。我が町は「農業立町」という意思を明らかにした、全国でもまれな自治体でございませう。先人が築いてきた基盤を基に、米づくりを中心に、野菜、花き、畜産などに果敢に取り組んでいます。今後、時代の変化や気候変動にいち早く対応した農政を打ち出すために、生産の現場に精通した農業専門の人材を町に置き、先んじて策が打てるように産地づくりをサポートしていきます。

また、農産物の販売面では、国や県、企業とのつながりを深め、マーケティングに力を入れるとともに、国内外の新たな販路開拓のために、私自身トップセールスを行ってまいります。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックの後は、海外のお客様がこの地方にも増えることを念頭に、生産者と宿泊施設・飲食店の間の地消地産の取組を進め、地元の産物をこの地元で楽しんでいただくようにしてまいります。

二つ目は、「津南町独自の価値である『文化』を観光資源に」です。町のそこかしこから土器が発掘され、ドキドキな歴史を持ちます。歴代の町長の御英断で長年、文化財の保護・活用への投資を続けてまいりました。それを最大限に生かし、我が町は「雪

国文化」と「縄文文化」の「文化立町」でもあるということを高らかに掲げてまいります。

今後の町政では、「農業立町」、「文化立町」を軸に、「津南」と名前を聞いただけで欲しくなる（物産）、訪れたいくなる（観光）、住みたいくなる（移住・定住）という津南ブランドづくりを進めてまいります。ブランドづくりの具体的な処方箋が、地域と協同して観光地域づくりを行う DMO であります。観光関係者だけでなく、多様な主体が参画し、農業、観光、移住・定住のキャッチコピーがそれぞれ違うということではなく、明確なコンセプトに基づく統一したブランド管理をしております。

第二の柱は、「愛あるまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「安心できる質の高い地域医療・介護」です。適正な地域医療を確保することで、町民の健康と安心を担保いたします。周辺医療資源との連携を進め、町立津南病院は一次医療を担う医療機関として、必要な診療体制の整備、十日町市から北信をカバーする救急体制の整備、在宅医療・看取り、疾病予防対策強化に特化することがベストと考えております。

運営の健全化により、町民や町の財政をはじめとする負担の軽減のために、今後、運営の形態も検討してまいります。

身近な介護サービスを町民の皆さんから知っていただく取組を進めるとともに、切れ目のない医療・介護のかたちを作ってまいります。

二つ目は、「子どもの育ちを家庭や地域とともに全力疾走でサポートする」です。新保育園を建設する方向で進め、子どもたちが過ごしやすい、快適な環境整備を行うとともに、待機児童対策に取り組んでまいります。子育て中の親たちが育児中にホッとできる場づくり（カフェ）を進め、リフレッシュしながら、子どもとの愛着形成を支援してまいります。

時代の変化のスピードがより早く、国際化が進む時代に生きる津南の子どもたちが、他者を思いやる力、自分の言葉で表現できる力など生きる力を身に付けられるように全力で支援してまいります。

三つ目は、「ここで暮らすためのインフラ整備に果敢に挑戦」です。町民の生活に必要なインフラ整備のために、積極的に現場に出向き、地域と対話をしてまいります。また国道 405 号の改良、灰雨新トンネルの早期完成に向け、引き続き関係機関と連携し活動していきます。

第三の柱は、「参加できるまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「中心市街地の活性化」です。

商工業者と定期的に話合いの場を設け、商工会と町行政がより連携を深め、商工業の元気を支えてまいります。特に商店街の空き店舗につきましては、町内外から様々な意見を募り、町民の交流活動や起業の拠点としてまいります。

二つ目は、『関係人口』の拡充です。「定住人口」でも「交流人口」でもない人々を指す「関係人口」という概念があります。津南町に縁や所縁がある人々や関わりを持ちたいと思っている全国の人々を、将来にわたって町の活力になっていただくために「(仮称)津南サポーター（第二町民制度）」を検討してまいります。

そして、これら三本の柱「希望のまちづくり」、「愛あるまちづくり」、「参加できるま

ちづくり」を効果的に実現していくために、町内の関係者の皆様との徹底的な対話を  
行いながら、町内外の有識者や実務者との連携も積極的に構築してまいります。

最先端の知見や国内外の取組を参考にしながらも、独自色のある取組ができるよう  
機動力のある組織づくりを行います。

その際、時代の変化や技術の進歩に柔軟に対応できることを念頭において、失敗を  
恐れずに挑戦する人たちを全力で支えていきたいと考えていますし、私自身もそうあ  
りたいという覚悟です。挑戦する人たちに溢れる町であることこそが「津南ブランド」  
を確立する基礎になると考えております。

最後に、歴代の町長が多く困難がありながら、町民とともに切り拓いてこられた  
道を踏みしめながら更に歩みを進めていく強い意志でございます。限られた資源で、  
より良い町民生活を実現していくために、町民の皆様と行政との関係をより近くし、  
一緒に町をつくらせていただきたいと考えております。その先頭に立って誠心誠意努  
力してまいります。議会の皆様方の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、所  
信表明といたします。

議長（草津 進）

以上をもって町長の所信表明を終了いたします。

暫時休憩いたします。

—（午前 10 時 19 分）—

—（休憩）—

会議を再開いたします。

—（午前 10 時 23 分）—

## 日 程 第 7

### 一般質問

議長（草津 進）

一般質問を行います。

通告に従って、順次発言を許可いたします。

質問は1回目は演壇で、2回目以降は質問席で行ってください。

なお、一般質問は1議員につきおおむね60分以内に制限し、3回以上の発言を許可  
いたします。質問、答弁は簡潔明瞭をお願いいたします。

議長（草津 進）

1番、半戸義昭議員。

（1番）半戸義昭

半戸義昭でございます。桑原新町長に最初に質問させていただくことに光栄に存じ  
ます。

質問をさせていただく前に、このたびの西日本豪雨災害で亡くなられた方の御冥福と  
被害に遭われた多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。1日も早く復興され、  
元の生活に戻れるよう心から願っております。

全国から注目されていた町長選挙も終わりました。全国最年少の町長が誕生いたしました。桑原町長、激戦を勝ち抜かれ、見事に当選されました。心からお祝いを申し上げます。これからの4年間、津南町のトップリーダーとして頑張っていただきたいと期待をするところでございます。

通告に従いまして、質問に入らせていただきます。桑原町長の町政に取り組む基本姿勢、理念について伺います。

1. 一つ目として、上村前町長は、「強くてどこよりもやさしい町づくり」を基本理念として8年間御苦勞なされてきたわけです。桑原町長は、どのような町づくりを目指しているのか、基本姿勢、理念について再度伺います。
2. 2点目として、上村町政8年間、多くの実績があるなかで、これからも継続していく事業と、これは見直しますというところがございますら、見解を伺います。
3. 3点目、桑原町長、選挙前、選挙中、様々な公約をなされております。今すぐ取り組む課題、5年、10年先を見据えた課題、更にその先を見つめながら取り組まなければならないわけでございますけれども、しかし、与えられた任期は4年であります。4年後、この津南、どのような姿を描かれておられるか伺います。壇上では以上であります。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

半戸議員にお答えいたします。

1点目、「私の基本政策について」の御質問であります。所信表明でも申し上げましたが、私が考える町づくりのキーワードは、「希望」と「愛」、そして、これからは「参加できるまちづくり」であります。希望とは、未来への原動力であり、津南に合ったもうかる農業を進めること。雪国文化、縄文文化といった津南独自の価値をこれからは観光資源として活用していくこと。そして、商工業を応援し、女性も若者も収入の道を確保することであります。また、愛とは、老若男女が安心して暮らせるためのしっかりとした支えであり、安心できる質の高い地域医療・介護、子どもたちの育成、ここで暮らすためのインフラ整備であります。これらを進めるためには、町民の皆さんの参加が欠かせません。職業や年齢を問わず、様々な町民の方が交流できる場づくり、そして、私自身、積極的に現場に出向き、対話を重ねることであります。また、町内外の方々にお力を借り、津南サポーターを導入し、将来にわたって津南とつながる人を増やし、一緒に町づくりを進めていきたいと考えております。

二つ目、「上村前町長が取り組まれた多くの施策、事業の継続する部分と見直しする部分は」という御質問です。まずもって町長2期8年、県議時代も含めると30年近くも町政の発展、地域振興に御尽力いただきました上村前町長に敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。「津南の天然水」の全国販売、津南町認証米制度の創設などの産業振興、保育料の軽減、子育て支援住宅の整備、学校支援員の強化など、子育て・

教育環境の向上、町営住宅の整備、除雪対策等の生活基盤の強化など、「強くてどこよりもやさしい町づくり」のために進めてこられた様々な施策は、せんえつではございますが高く評価し、今後も継続してまいります。事業の見直しにつきましては、今後、職員から事務事業のヒアリングを行うことになっております。その内容など、詳細を聞いたうえで評価させていただき、財源を見据えたなかで見直す部分、あるいは、更に良くする部分、全事業区分けしたいと考えております。また、職員とは、常設の会議のほかオフライン 一顔を合わせて打合せをすることです— オンラインでもつながり、第一線の現場の情報が集まりやすいように今後改善していきたいと考えております。

「4年後の津南町の姿をどう描くか」ということに関してです。昭和30年に津南町が誕生してから60年が経過しております。高度成長を起点とする拡大路線から成熟のステージへと国も、そして町も移行してきていると思っております。1万年間、ここで安定した生活を営んできた縄文時代にならい、津南の先人たちが残してくれた資産を最大限に生かして次の10年、20年先を見据えた長期的なスパンで町民の皆様と一緒に各種施策に取り組み、津南丸をぐっと前に押し出し、津南町への関心が更に高まり、物産、観光、移住・定住につながるような町づくりを進めたいと考えております。高齢化、既存施設の老朽化の進行がこれからますます進むなかで、前町長から引き継いだ重い課題の幾つかにおいて方向が決まり、実行を伴った状態で4年後を迎えたいと考えております。

以上です。

議長（草津 進）

1番、半戸義昭議員。

（1番）半戸義昭

1点目の桑原町長の基本政策、理念について伺いたいと思います。先ほど、所信表明でも述べておられましたが、桑原町長の基本政策、理念というのは、「希望」、「愛」、「参加」ということで理解してよろしいでしょうか。—（桑原町長、うなづく。）— はい。前町長は、「強くてどこよりもやさしい町づくり」という政策理念をお持ちで8年間取り組んでこられました。「希望」、「愛」、「参加」これも言葉こそ違え大きな意味で言うと、前町長の「強くてどこよりもやさしい町づくり」と中身的には、私はそう変わっていないのではないかという気がするのですが、町長自身、ここが大きく違うのですよという所がありましたら、お伺いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

前町長の「強くてどこよりもやさしい町づくり」、「強くて」の部分は、恐らく私の政策の中では、「希望」の部分に値するものではないかと思っています。そのなかで、今

まで町長が進めてこられた施策、全事業の見直しをかけながら、そして、良い部分は引き継ぎながら、時代に合った施策として前に進めていきたいと思っています。そして、「愛」。私、二人の子どもを育てる母親です。母性というもの、そして、町政史上初の女性町長ということ意識いたしまして、「愛」という言葉をここに付けました。やはり老若男女が安心して暮らせる、その支えとなるのは、医療・介護、それから子育て、教育、インフラ整備であると思っています。恐らくこの部分は、前町長、上村さんの「やさしい」の部分と大分重なる所があるのではないかと思っています。そのなかで、先ほども申しましたように、見直すべき所は見直し、更に重ねていく所は重ねて前に進めていける施策をこれから一つ一つ打ち出していきたいと思っています。そして、これは私独自の政策でございます。「参加できるまちづくり」。私、全国最年少と言われていますが、私自身、余り意識してはいませんが、若年の、そして子育て世代でもあります。全世代の皆様と同じ目線で、そして、ときには人生の先輩方にアドバイスをいただきながら、皆さんと一緒に作るのだと、いつでも町長室は寄ってくださいと、昨日もたくさんの方々、今まできっと町長室に足をお運びでなかった方々が足を運んでくださり、現場のお話をお聞かせいただきました。そのような参加できる町づくりを進めていきたいと思っています。また、今、津南町の中核となって働いてくださっている働く世代の方々、活躍の場を広げられるように DMO の支援なども盛り込んでありますし、また、中心市街地の活性化、商店街の空き店舗を活用した交流拠点、企業支援の拠点などの支援を盛り込んでおります。皆さんが参加できる、今まで参加したいなと思っていたけれども踏み出せなかった、そのような「参加できるまちづくり」を私独自のものとして今回掲げました。是非、私、町長という立場ではございますが、皆さんと同じ目線で、そして汗をかき、涙を流し、一生懸命、誠心誠意努力してまいりたいと思っています。

議長（草津 進）

1 番、半戸義昭議員。

（1 番）半戸義昭

住民参加という桑原町長の新しい施策の柱というものは、私も非常に大事なことだろうと思っています。町民、多くの方が参加して町づくりをする。まさにこれからはそれが一番大事であり、必要なのかなと私も感じておりますので、是非力強く進めていただきたいと思います。

2 点目なのですが、町長就任時の会見で「観光が全産業を潤す。」と述べられたと紙面で拝見いたしました。先ほど町長は、「農業立町、文化立町、津南町は 2 本柱でいくのだ。」というお話をされたかと思うのですが、観光が全産業を潤すということの意味合いを教えてくださいたいと思います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

今まで観光というのは、一次産業、二次産業、三次産業の中で三次産業の一部分として位置付けられてきたかと思います。ただ、これからは、一次産業、二次産業、三次産業全ての基盤となるよう考えを少し前に進めまして、観光で地域をつくるんだ、農業者の方々も、そして、商店街の方々も、また、教育関係者も関わる、様々な主体が関わる会議体をまず作りまして、町民の中から湧き上がってくる力を、どんなことがサポートできるか、そのようなことを常に思いながら進めてまいりたいと思っておりますし、また、その処方箋の一つが所信表明で掲げました DMO への支援です。御理解いただきますよう、よろしく願いいたします。

議長（草津 進）

1 番、半戸義昭議員。

（1 番）半戸義昭

もちろん観光も大事であり、観光資源を生かすということは、最も大切なことだと私も考えております。しかしながら、やはり津南は農業立町であり、やはり津南の経済の一番重要な部分というのは、農業をいかにしっかり守り育てていくかということと私は考えておりますので、先ほど、所信表明で「農業立町でいきます。」というようなお話をされたかと思っておりますので、是非農業でしっかりと頑張れる、また、津南は農業だと言われる町づくりをお願いをしたいと思います。津南町認証米制度については、継続してやっていくというお話を先ほど伺いましたけれども、この津南町認証米制度についても、やはり今、様々な見直しの時期というところにきているのではないかと私は思っております。もっともこの津南町認証米というものも一般消費者等に更に認知していただけるような取組が是非必要なのだらうと思っております。昨日の新潟日報の紙面に「魚沼コシ、うまさ変わらず」というような見出しで載っておりました。魚沼地域の農産物や観光 PR をする「『魚沼コシヒカリ』おいしい夏まつり」というのが 16 日、東京表参道の新潟館ネスパスで開かれたと紙面では載っておりました。そういうなかで取り組んだ方々というのは、魚沼米改良協会という方が主催をされてやっておられたと聞いております。そこに行っておられた消費者というかお客様ということなのではないでしょうか、「とても特 A を逃したことは知らなかった。しかし、魚沼コシヒカリは粘りがあっておいしく、さすが魚沼コシヒカリだ。」というようなお話をされたということが昨日の新潟日報に載っておりました。やはり津南町認証米も継続するのはもちろんなのですが、先ほど申し上げましたように更にもっと消費者ニーズに合った、そして、魚沼コシ、津南コシ、津南町認証米を販売している販売業者とのしっかりとした話合い、そして、消費者ニーズに合った生産者への生産への取組、そういう一つの販売者、生産者、消費者、そこら辺りをしっかりと踏まえた連携の取れた、そういう施策もこれから必要なのではないかと私は考えますが、その点について町長のお考えをお願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

津南町認証米制度について、私も選挙を通しまして全ての村々を回り、本当にたくさんのお話をいただいて、今日ここに立っております。津南町認証米制度につきまして、「良いコメなんだから、先に売れるのは、それは当たり前だよ。」という御指摘もいただいてきたところです。今後、これを継承しつつも全てのお米の質は向上するように、また生産者や集荷業者と連携しながら、そして、これからちょっと先を見て農業の策が打てる農業専門の人を役場の中に置いて農政を進められるように進めていきたいと思っております。例えば、豪雨災害などもありましたが、気候変動の影響を日々感じる今日でございます。この気候変動に合ったコメ作りとはどういうことなのか、というのをちょっと先を見て策が打てるような体制をいち早く整えさせていただきたいと思っております。また、販売面におきましても、前町長から引き継いでおりますが、「今まで津南町はマーケティングの部分がちょっと弱かった。その部分、強化していく必要がある。」という御指摘もいただいて

まいりました。国や県、そして、民間企業の方々と連携しながらマーケティング — 市場調査のことです— どこにターゲットを絞って津南産コシヒカリを打って出ていくのかというマーケティングを丁寧にやっていきたいと思っております。

以上です。

議長（草津 進）

1 番、半戸義昭議員。

（1 番）半戸義昭

生産者側から見ますと、津南町認証米というのはやはり手間が掛かるわけです。特別栽培米、津南町認証米というのは、一般米と違ってかなりの手間が掛かる。そういうことで、価格的に一般米とそう差がなければ、どうしても生産者サイドから見れば、生産量が増えてこないというのは、ある意味当然なのかなと思っております。先ほどから津南ブランドというお話を何度かおっしゃっております。是非この津南町認証米が津南ブランドとしてしっかりと認知されて、そして、また更に生産者にとって高値で売れるような、そういう販売力というものをしっかりと販売に携わっている方々と話し合い、協議を持ちながら取り組んでいただきたいと思います。

次に、前町長は、「みんな雪のおかげ」を町づくりの一つのキーワードとされて、その恩恵を強調されてきました。確かに雪で恩恵を受ける部分も数多くはありますけれども、しかし、雪がもたらす負の部分というの、また多いわけでございます。人口減少に歯止めがかからないのも豪雪地であるがゆえであり、また、雪に閉ざされた数か月間の不便さ、緊急時の対応に支障など負の部分について、どのように見直されていこうとお考えか、お考えを伺います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

雪がもたらす負の部分という御質問でございます。先週、総務省に表敬訪問させていただきました。津南町という豪雪地帯だからこそ、例えば、地域医療をしっかりと守っていくために今の技術、ほかの議員の質問にもございますが、遠隔診療というのは、やや法的にハードルが高いのですが、診療に行く前の段階、医療の相談、例えば、雪深い地域にお住いの方々をお医者さんと直接つないで日々の医療の相談が気軽にできるような、そのような体制整備も具体的に考えています。そして、除雪対策についてですが、除雪に携わる方々の待遇改善を企業さんと相談しながら、何ができるのかということを一緒になって考えていきたいと思っています。

ほかにございましたら、お願いします。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

雪の負の部分、これは私が今更ここで言うべきものではないですが、負の部分とは言うものの、道路除雪はしっかりできている。あるいは、今言った高齢者の除雪も対応してきている。そういうものを今後もまた引き続き改良していかなければならないと思いますし、また、高齢者の分では、いかに屋根雪除雪以外の部分、例えば、家から道路までの分をどう対応するか、あるいは、地域でその高齢者の部分をどうケアできるかとか、そういうものを知恵を出しながら、いろんな対策を考えていくこと、これがやはり雪の中で暮らす自分たちの克服しなければならない課題だと思っています。またいろんな皆さんからいろんな御意見を聞かなかで町としてできるもの、あるいはまた、地域としてお願いするべきもの、その辺の仕分けをしっかりとやりながら対応をさせていただきと考えております。

議長（草津 進）

1 番、半戸義昭議員。

（1 番）半戸義昭

町民が1年間安心して暮らせる町にするためには、この雪がもたらす負の部分について、やはり今まで以上に真剣に取り組んでいただきたいと思いますし、また、この負の部分がもっともっと解消されて住みよい町づくりにならなければ、人口減少の歯止めというのは、なかなか掛かりにくいのだらうと思っていますので、是非しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

最後に、町長は議員時、あるいは選挙前、選挙中、様々な公約をなされてきました。

子育て、教育、生きがい、地域経済、農業、地域医療、インフラ整備など公約としてなされてまいりました。先ほどもこれらについて幾つか触れておられましたけれども、与えられた時間・期間というのは4年間であります。4年間でこれらの公約の全てを実現は当然無理でありますし、この公約は4年後こういう姿になっていたらというようなことをどのように描かれておられるか、町長の描いておられる4年後の姿というものをお聞きしたいのです。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

まず、この機を十分に活用させていただき、津南という言葉がもっと全国に知れ渡るように一生懸命PR活動をしてまいりたいと思います。全国に出ますと、『つなちゃん』ですか。』とか『つなみ』ですか。』という声もよく聞かれます。そういうなかで、津南町ということを世間に、たくさんの方々に知っていただくように、イメージアップを図っていきたくと思っています。そして、その中で何人かの方々の関心を引き、「じゃあ、移住してみようか。」「津南に帰って仕事してみようか。」という人が一人一人増えていくように、その一人一人を大切にしていきたいと思っています。そして、こちらに定住してくださった方々、一生懸命情報発信をしていただきますよう私からもお願いしたいと思っています。そして、答弁でも申し上げましたが、前町長から引き継ぎました重い課題の幾つか、例えば、町立津南病院の運営の問題。2年続けて5億円という赤字を一般会計から補てんしておりますが、いつまでもこれを続けるわけにはいかないと考えております。まだまだ津南町、かけていかなければならない所がたくさんあると思っています。そのようななかで今後の津南病院の運営の在り方、これから関係者の皆様と十分に議論を重ねたうえで、4年後、少し方向が見え、そして、動き出してもきたし、成果が上がってきたという状態にもっていきたくと考えておりますし、町民の皆さんとそういうお約束をさせていただいています。とても責任を感じております。また、関連しますが、既存の公共施設がますます老朽化が進んでまいります。これも、来週から事務事業のヒアリングがございしますが、全事業の見直しをかけるなかで、1万人を切った町で全ての施設が維持できるかできないか皆さんと議論して、一つ一つ決めていきたいと思っています。

議長（草津 進）

1番、半戸義昭議員。

（1番）半戸義昭

是非少しでも多く公約の実現に向かって4年間取り組んでいただきたいと思っています。よろしくお願いをしたいと思います。

町長として日本一若い桑原町長に町民の多くは期待をし、また一方では、不安を感じておるのも事実かと思っています。私は、桑原町長に今までにない斬新な発想力と行動

力を期待しております。若いということは、とても素晴らしいことでもありますとともに、反面、経験不足というところは否めないところであろうかと思えます。それを補うには、自ら出向き、聴く、そして、自分の目で見ることが何よりも大事かつ肝要ではないかと思えます。経済格差、格差社会がさげられるなかで常に弱者の立場に立った心あたたかな町政を望むとともに、様々な課題に果敢に取り組んでいただくことを希望し申し上げ、私の質問を終わりたいと思えます。ありがとうございました。

---

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

本日は桑原町長の初議会ということで、大変大勢の傍聴の皆様からお出でいただいております。私もこのように大勢の方々がお出でくださった議会、少々緊張しておりますが、通告に基づいて2点の質問させていただきます。

1. まず、1点目でございます。昨年度、前町長より津南病院運営審議会に町立病院の今後在り方について、また、これからの医療提供について抜本的解決策の諮問があり、昨年12月に病院運営審議会より答申がなされました。御承知のように魚沼圏域の医療連携体制が構築され、二次医療圏での完結型医療体制が整いつつあります。そのなかで津南病院の担うべき役割として、初期診療と終末期医療を担うことが求められます。それらを基本に病院運営審議会では、12回の検討会を実施し、今後、継続して住民の暮らしと命を守ることができる町立病院の維持を目標に上げて取り組み、具体的には、診立てと看取りをしっかりと担うことができる町立病院を目指した答申をいたしました。

（1）まず、町長にお伺いいたします。このたびの答申の基本的な方向付けについて、町長の見解を伺います。

（2）次に、幾つかの改善計画が提示されましたが、既に病床数の削減等改善がなされた部分もあるなかで、現在、休床となっている3階の利活用です。3階の休床中の病棟を高齢者の居住スペースに改修し、在宅として支援を充実する方向で平成31年度、来年度開所の予定で答申がなされましたが、改修経費等の関わりから計画が滞っている状況です。今後の見通しを伺います。

（3）次に、常勤医師確保が最優先課題であり、行動に移していただきたいのは言うまでもありませんが、その手法として「若い医師の海外研修制度を作り、若い医師に魅力的な病院にする。」と公言しておられますが、その具体的施策を伺うものです。

2. 次に二つ目、保育園の統廃合について伺います。現在、保育園の待機児童がおられます。町長は、「新保育園を建設し、待機児童解消に取り組む。」と公約しております。御承知のとおり、平成30年度には2園にする構想がありましたが進んでおらず、いまだビジョンも年次計画も示されておられません。町長は、子育て真っ最中であり、働く女性の観点から待機児童がいることをどのように受け止めておられますか、伺

います。そして、「新保育園を建設して待機児童解消に取り組む。」と公言しておられますが、年次計画と財源計画について伺います。  
壇上では以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

石田タマエ議員にお答えいたします。

1点目、「津南病院の在り方、答申による改善策」についてお答えいたします。昨年12月に病院運営審議会から上村前町長に答申がなされ、今年1月に前町長から答申に対する方針が発表されました。私としましては、その基本的な考え方につきましては、踏襲して進めていきたいと考えております。ただし、具体的な提案につきましては、短期、中・長期的な医療需給の予測、津南病院の患者動向はもとより津南病院を取り巻く環境や国の診療報酬制度、交付税措置などの状況を見極めながら、毎年の見直しや追加、修正作業が必要ではないかと考えているところでございます。いずれにいたしましても、病院運営審議会の副会長という重責を担っていただいている石田議員からは、今後とも町立病院の健全化に向けて、より一層の御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

二つ目、「3階の休床中の病床については、改修経費等の関わりから計画が滞っている状況だが、今後の見通しを伺う」という御質問でございます。3階の休床中の病棟につきましては、老人福祉法上の高齢者施設で介護保険の特定サービスを提供する施設へ転換を目指しましたが、議員御指摘のとおり改修経費の問題、看護師・看護助手などの人的確保の問題、25室の受入れ施設オープン後の採算上の問題から、もう少し検討時間を要するというところで、平成30年度での事業実施を見送ったところであります。今後、福祉保健課と連携しながら、津南町における高齢者、介護保険施設上の課題の洗い出しを進め、3階の在るべき姿を模索してまいりたいと考えているところであります。いずれにせよ、私はこのたび村々を全て回り、初めて町政に挑戦した7年前に回った時と比べ高齢化が加速している現状を目の当たりにいたしました。在宅で介護をされている御家族の方々の声をたくさん聞いてまいりました。在宅介護をされている方々に寄り添った施策、どんな施策が進めることができるか、最重要課題の一つとして進めていきたいと思っております。

3点目、「若い医師の海外研修制度」への御質問であります。このことの根底にございますのは、地域間の医師偏在の問題であり、特に私どもの津南町、十日町市、栄村のエリアは、依然、医師不足の問題に直面しています。例えば、人口10万人当たりの医師数について、十日町市、津南町、栄村約7万人弱のエリアにおきまして、対人口10万人当たり医師数108人となっており、全国平均の240人を大きく下回っております。ちなみに、東京都は304人でございます。このように他の地域と比べ医療格差が生じていることに対して、医師不足について実効性のある対策が急務であるとの考えから、

具体策として掲げたものであります。若い医師にとりましては、海外留学は自身の学術研究や最先端の臨床治療を研さんでできる極めて有用な研修であると言われております。しかし、この研修期間は大学から給与が支給されないため、若い先生方は、この研修費用を捻出するために大変な努力をしていると聞いております。こうした問題を逆手に取って、病院に勤務・所属する医師として、津南病院から海外研修に行っていただけのかたちが取れば、将来性のある医師にとって大変魅力的な病院になるのではないか、そして、安定的な常勤医師確保につながるのではないかと考えたところであります。しかし、これを事業として構築するためには、事業内容、総事業費、費用対効果など詳細に検討したうえでなければならぬと考えております。なお、今国会では、医師少数区域で一定期間勤務した医師を厚生労働大臣が評価・認定するなどの医療法及び医師法の一部を改正する法律案がただ今審議中であります。本日、成立の見込みでございます。法改正の動きをいち早く捉えながら、一私が提案したことに非常に似通った策もそちらに記載されております— 津南町に合う事業には果敢に手を挙げていきたいと考えております。

次に、「新保育園建設計画について」です。『新保育園を建設し、待機児童解消に取り組む。』と公約しております。その年次的な計画及び財源計画は」とのお尋ねでございます。私は全町を回り、このたび待機児童対策に対して厳しい御指摘をいただき、今日こちらに立っております。昨日も町民の方から町長室にお訪ねいただき、話を聞いたところでございます。私も働く女性の一人として、安定した収入を得たい。その背景には、自分の着る物、食べる物は、やはり自分で収入を得たい。そして、子どもと時々はどこかに出かけたい。そのためにそんな収入を得たい。そして、将来のために教育費を貯蓄したい、という考えがあります。多くの働く女性にとって、そのような考えの方が多いのではないかと考えています。平成30年度当初におきまして、津南町始まって以来、9名の保育所待機児童が発生いたしました。保護者の意向に沿うべく、引き続き保育士確保を図り、7月1日時点では、6名が入所することができました。途中、2名が入所を辞退したことにより、1名が待機している状況でございます。ただ、私は潜在的にはまだまだいると考えております。また、将来的にはこちらに定住したいと考える御夫婦の方々にも同じような御指摘をいただいております。待機児童の解消をはじめ、子どもの健やかな育ちの保障や保育環境の整備など様々な課題を解決するためには、新保育園の建設を一刻も早く進めなければならないと考えているところでございます。平成29年度中に建設候補地を決めて、1園体制とする基本計画の策定に取り組んでおります。現在、町の教育委員会では、建設候補地の地権者に対し、用地交渉を具体的に行っている段階でございます。今後、早い時期に地権者の同意が得られた段階で、施設の内容、年次計画、財源計画について、議員の皆様にもいち早く御説明し、御理解を賜りたいと考えております。そのあと、地元や各保育園保護者などを対象に説明を行うことにしておりますので、その際は、議員各位の皆様方からも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

まず、津南病院の在り方について再質問をさせていただきます。ただ今、御答弁をいただきました。当然のこととして、状況判断して、まさにPDCAサイクルをきちんと回していくということは必要だと思いますが、今ほどの答弁では、基本的には答申を踏襲するというようなことです。これは、町立病院としてしっかりと町民の命と暮らしを行政が責任を持って守っていくという覚悟だと思いますが、町長は選挙期間中に、公設民営もあり得るというような表現をしておられます。病院運営審議会では、当然、公設民営についても具体的に事業者に当たり検討してきた経緯があります。公設民営については、このあと何人かの議員からの通告がありますので詳しくはわかりませんが、あえて町長が今選挙において各所で公設民営の可能性のある表現をしてきたことに、住民は大変大きな不安を抱いております。また、今ほどの答申を踏襲するという答弁とは、少し食い違っているように思いますが、この辺の意図を伺います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

津南町の現状と今後を考えますと、先ほどもお話しましたとおり、一つ目に、救急は小児科も含めた、できれば外科の小手術も含めた救急を担っていくことがまず一つ。そして、二つ目に、内科の一般診療を担っていくということがまず一つ。そして、三つ目に、高齢社会で需要が増える整形外科、リハビリなどの整備を行っていくということが一つ。そして、四つ目に、在宅医療、看取りを行っていくということが一つ。そして、最後に健診、疾病予防対策の強化。この5点に特化することができれば、ベストという考えで私もおります。その基の考えで見ますと、この昨年出された答申は、私の考えと似ている部分が多く、基本的には踏襲していきたいと考えております。また、今ほど、公設民営についてのお尋ねがありました。公設民営も一つの選択肢という表現をしております。今までの津南病院、このままで良いと思っっているとは思っていません。多くの町民の方々の意見を聞きますと、やはり今後の運営のかたちは検討していかなければならない話だと思っております。そのうえで、公設民営も一つの選択肢であるという表現をいたしました。詳細は、病院事務長が申し上げます。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

昨年の病院運営審議会、12回とも石田議員も一緒になって検討されたのは周知の事実なわけでございます。公設民営につきましては、新潟県内におきましても市町村立

の自治体病院というものは、どちらかと言えば、津南町のような町が直営で経営を担っているほうがむしろ少ないという状況でございます。例えば、すぐお隣の湯沢病院。これも町立湯沢病院でございますけれども、公設民営で行われているところでございますし、阿賀野市にある阿賀野市民病院。こういった所も公設民営で、これは厚生連でしたかね。そういったかたちで運営をされているわけです。今の状況といいますのは、どちらかと言えば直営でやっているよりも自治体病院も経営は公設民営でやっている所のほうが多いという実態がございます。要は、自治体病院でございますから、どうしても不採算部門を担わなければならない部分というのは、これはもう自治体病院である以上は宿命があると私は思います。そこの部分について、いかに運営を担っていただける所との折り合いを付けるか、そういったところが一番大きな問題になるのだらうと思いますけれども、今、公設民営でやっている所というのは、やはりそういったことをクリアして公設民営でやられている。それを多分、そこの住民も納得していただいているということなののだらうと思います。町長が言われるとおり、やっぱり一つの手法としては、検討すべきことかなと思ってございます。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

公設民営については、このあと何人かの議員の皆さんの質問にありますので、余り詳しく詰めるつもりはないのですが、病院運営審議会でも、この公設民営については検討してきました。当然、副町長も病院長も病院事務長もそのメンバーに入っておられましたが、町長があえてその選択肢もあると言うことは、町長御自身で再度検討するということでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

はい。そういうことです。今後、10年たちますと、今の病院施設も老朽化が進んで建て替えなければならないという時期も迫ってまいります。また、それと併せて運営のかたちの見直しも必ず必要であると思っております。仮に、仮にです。どのような形態をとるにせよ、行政として、そして、私、一万町民の生命と財産に責任を持つ町長という立場として、地域医療はしっかり守っていくという強い覚悟でございます。ですので、不採算部門だから切り捨てられるとか、そういう不安の声も聞かれましたけれども、町民生活に必要な地域医療はしっかり責任を持って確保していくという考えのもとでこれから検討してまいりたいと思っています。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

(3番) 石田タマエ

病院運営審議会には、それに関わる皆さんがメンバーとなっていていただきしておりますし、当然、住民からも参画をしていただきしております。先ほど、町長が言われた参加型町政、そういったものにきちんとマッチしているかたちの審議会ではないかと思いますが、それ以上にまた町長が御自身で検討しなければならないという意向は分かりました。

次に、3階の休床中の病棟について伺います。一昨年に3階の利活用だけについて検討してきた経過があります。さらに、昨年の答申に対しても、検討をしてまいりました。3階の空き病棟については、ほぼ2年掛かりで検討してきました。慎重に検討することは必要ですが、病院運営審議会では、当然、病院関係者、行政の福祉関係者、住民サイドからもメンバーとなっていていただきしております。今ほどの答弁にありました、今後、更に福祉保健課サイドで高齢者介護保険施設制度等々に照らし合わせて検討をするということですが、先ほど申し上げましたように副町長も病院長も病院事務長も福祉保健課長も、福祉保健課においては班長も、それぞれ皆さんこのメンバーに参加していたわけですが、この検討会が機能していなかったとの御判断でしょうか。

議長 (草津 進)

副町長。

副町長 (小野塚 均)

決して機能していなかったなんていうことは思っておりません。一緒に私も出ていましたので、どういう施設にしようかと、また、どういう規模にしようか、そうした場合にどの程度の収支が掛かるのか、その辺のところもその時点では一通り皆さんと相談をして、そして、それを改修するためにどの事業を使えるのか、補助事業等何を使えるのか、そういうようなことも検討したなかでの一つの案として、答申としていただいたと思っております。ただ、それを実際にやろうということで、詳細に内部を検討しましたら、どうもこのままやったのでは赤字がかえって増えてしまうのではないかと、そのような懸念が出た段階で、もう少し検討をしようということで、昨年、今年度の着工を見送ったという状況であります。そしてまた、高齢者の皆さんの需要関係も、やはりもうちょっと精査する必要があるだろうということも併せて、今のようなことで見送ってきた経過がございます。これは決してやらないと言っているわけではないので、もう少し中身をきちっと精査するなかで、本当に改善になるのかならないのか、あるいは、これが高齢者の医療のためになるのかならないのか、その辺も最終的にきっちりと精査したうえで、また判断をさせていただきたいと考えております。

議長 (草津 進)

3番、石田タマエ議員。

(3番) 石田タマエ

今ほどの答弁をいただきましたが、それは今度は事務局サイドで精査をするということで、病院運営審議会とは別に離してということですか。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

細かな部分、詳細な部分については、事務局サイドで検討をしたいと思っております。ただ、その検討内容については、またきちっと病院運営審議会のほうにお話をして、また議論をいただきたいと考えております。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

桑原町長に伺います。3階の空き病棟については、今、住民のほうからは療養病床を復活してほしいという意見も聞かれます。私たち病院運営審議会では、在宅という位置付けで改修しようという方向付けを出しました。はたまた、あの病棟は何も手を付けないほうが収支的には良いのではないかという意見もありますが、町長、率直に今現在の状況のなかでどう考えますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

建物の3階部分をどのように活用するか、そういう視点も大事だと思いますが、今、町民生活に求められている病床が何なのかというニーズをもう1回皆さんと議論させていただきたく存じます。国の診療報酬制度に沿ったかたちで進めていくことが病院経営にとってもより良いことでありますし、また、その部分と地域のニーズに合った部分、例えば、地域包括ケア病床など導入することは、病院運営審議会の方針に書いてありますが、これは本当にとっても良いことだと思います。是非、早期にこの地域包括ケア病床の導入に向けて、私としても現場と相談しながら全力で働いてまいりたいと思っております。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

なんだかんだやるとしても、なかなか前に進まないかなと思います。

次に、若い医師の海外研修制度について伺います。今ほどの答弁では、これはなか

なか実効性には時間が掛かることだというふうには受け止めましたが、今、十日町病院が新専門医制度における総合診療医の研修受入れ病院を目指しているという状況ですが、むしろそちらの実現性に積極的に力を入れるべきではないかと考えますが、見解を伺います。

議長（草津 進）  
病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

まさに今、石田議員がおっしゃっている部分についても昨年から取り組んでいることとございまして、今の県立十日町病院につきましては、新専門医制度の中での19番目でしょうか、総合診療医という部分での若手医師の受入れ基幹施設ということで申請を出しているわけです。私ども町立津南病院と県立松代病院につきましては、その基幹施設の関連施設ということで、十日町病院と連携をしながら受入れ施設の要望を今出しているところでございます。現実的に今それを受け入れても、指導ができる指導医というのが院長、佐野医師の2名いらっしゃると思いますので、そういう部分での受入れ側の十日町病院が本当に基幹施設として認められて若手の医師が来れば、1年程度以上の若手の常勤医師を受け入れて診療いただくことは可能な道ですので、併せて進めているところでございます。

議長（草津 進）  
3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

津南病院には、課題がまだまだたくさんありますが、町長はまず赤字を減らすために何を最優先、まず最初に何をすべきだと思いますか。

議長（草津 進）  
町長。

町長（桑原 悠）

私自身、大学に訪問し、医師確保に全力を注いでまいりたいと思っています。常勤医師の方々、永遠に津南に住むということばかりではなくて、3か月でも半年でも1年でも常勤としてお勤めいただくように、そんなお願いもさせていただいているところです。来月、大学のほうに訪問させていただく予定であります。様々な顔つなぎをして、医師確保に全力を注いでまいりたいと思っています。

議長（草津 進）  
3番、石田タマエ議員。

(3番) 石田タマエ

当選のあとのインタビューの中では、すぐ東京慈恵会医科大学に行ってこられるとあったので、もういつかなという期待はしていましたが、来月ということですので、すぐ行動に移していただきたいと思います。住民の命と生活を守ることを第一義として、次に5億円を超える赤字を減らすことが最優先、命題だと考えますが、そのためには何と言っても常勤医師を最低1名確保して、せめて平日の緊急体制が常勤医師で回せるようにしなければ、外来診療の改善も前に進まないのが現状です。日替わりの医師に掛かる莫大な経費を削減しなければ、どうにもならないのではないかと思います。選挙戦である候補が「集中と選択」という表現をされていましたが、まずはこのことに集中して取り組むべきと考えます。東京慈恵会医科大学ももちろん早急に手を打っていただきたいと思ひますし、十日町病院との関わりももっともっと進めていただきたいと考えます。

私は、病院運営審議会のメンバーとして、3階の利活用から津南病院の在り方について真剣に関わってきたつもりです。しかし、これらが検討、検討でまた振り出しに戻ってしまうというような繰り返しでは、なかなか前に進まない状況です。今ほどの津南病院の今後の在り方というところでも、町長御自身がもう一度検討したいということでもありますし、こういった状況でなかなか前には進んではいきません。これが行政の姿なのだと思いますが、町民は毎日の生活の中で「津南病院はどうなるんだろう。もしかしたら、もうけ主義の民間にならんじゃねえか。赤字をもっと減らさなければ、なんの事業もできない。財政破たんしないだろうか。」こんな不安を抱えているのが現状なのです。だからこそ、選挙戦でも3候補とも重要課題として提言しておられたのだと思いますが、もちろん慎重に事を進めなければならないことは十分わかりますし、病院運営審議会の検討結果が全て完全だとは思いませんが、またしてもこの部分を再度検討、またしてもということで、なかなか前に進みません。スピード感を持って、決めることは決める、前に進めるものは進める、そういったことが必要だと考えますが、見解を伺います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

私自身、スピード感を持って来月大学のほうに訪問させていただくという計画を既に付けました。この計画を付けるのもなかなか至難の業です。そのなかでスピード感を持って取り組んでいきたいという強い覚悟です。今日まで様々な険しい道を通らせていただき、皆さんのお力のおかげでこちらに立たせていただきました。是非、この任期の間で前に進めていきたいと思って決意を新たにいたしました。ありがとうございます。しかと胸に刻みました。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

(3番) 石田タマエ

病院に関しては最後になりますが、病院運営審議会は、昨年の諮問に関しては12回の検討会を実施してきました。その前には、3階の利活用ということで検討して、おおむね2年掛けていろいろ検討してまいりました。私たち議会からのメンバーや行政職員はボランティアとは言いませんが、住民代表で参画してくださる方々は、皆さんボランティアで12回を超える検討会に真剣に意見を交わしていただきました。しかし、先ほども申し上げたように振り出しに戻ったり、また、町長が変わったら一から町長個人で検討をしていくというようなこともありました。今ほどの所信表明にもありましたが、参加型の町政を進めていきたいというようなことではございましたが、こういった審議会のような形態が、まず住民参加型の一つではないかと思えます。今後、津南病院の在り方について、病院運営審議会との関わりをどのようにもっていかれますでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

「参加できるまちづくり」ということを高らかに掲げております。今後、どんどん病院運営審議会に諮問させていただき、町民の皆様には様々な提案をいただきながら、良いものはすぐに実行していきたい。その結果責任は、全て私が取らせていただきたいと思っております。私も議会人としてこの間、津南病院の運営については常々勉強させていただきました。病院運営審議会の経過に対しても、先日、レクチャーを受けたところです。これから勉強するのではない、すぐに実行できるものは実行に移していきたいという決意でこちらに立っています。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

(3番) 石田タマエ

スピード感という言葉が非常にいろんな所で飛び交っています。住民からしてみれば、当然もう選挙の終わったその時から。常勤医師確保ということ町長は言っておられました。東京慈恵会医科大学に行く用意はできているということだったので、もう即、何をおいても私は最優先に行ってもらいたいと思ったのですが、来月ということですので、住民の考えているスピード感と行政の考えているスピード感というのは、かなり違いがあるなということを感じます。本当にスピード感を持って取り組んでいただきたいと思えます。

次に、保育園について伺います。まず、私はずっと保育園については、保育環境の改善を言い続けてきました。このたびの選挙後、住民のインタビューの中に「多少の負

担があっても保育環境を改善してほしい。」という意見を見て、また私は力を頂きました。今、保育料無料化がさげばれていますが、町長は、多少の受益者負担をどのように考えますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

それは保育料ということでしょうか。 —（石田議員「はい。」の声あり。）— 適正な受益者負担は、一般的に考えて必要だと思っています。サービスを受けるに必要な負担は当然であると思っています。保育料に関しましては、先週、野田総務大臣とも意見交換させていただきましたが、今、義務化の流れで進んでおります。国の状況をチェックしながら、そして、運動もやらせていただきながら、保育料の負担軽減については、とても有効な策と考えておりますので、関係機関と足並みを揃えて進めていきたいと思っています。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

保育料については、全く同感です。私も受益者負担は必要だと思います。そういったなかで、やはり今検討されています保育園の統廃合というのは、保育環境をやっばり前に進めていく最も必要なことだと考えております。もう一つ、待機児童について伺いますが、町長は選挙後、一般の子育て世代が仕事と子育てを両立することに触れて、「町長も同じことで変わりはない。」という発言をされていましたが、そういうことであれば、もし今、町長のお子さんの面倒を見る人がいなくて保育園で未満児を預かれないという事態になったら、どうされますか。町長室にお子様を連れてきますか。それとも、高い保育士を頼んで雇いますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

働く女性は全国的に見て増えております。津南では、このような、私のような小さい子どもを持つ女性が管理職として働くというのは、とてもまれなことです。ただ、全国的に見れば、どんなかたちであれ両立して頑張っている働く女性がたくさんいらっしゃいます。そのようななかで、私であれば、幸いにして保育の環境にも恵まれておりますし、また、今、子どもたちに私も一生懸命愛情をかけて育てています。そういうなかで、これから立場を同じくする母親の皆さん、そして、入れられなくて本当に切ない思いをしているという方々、実にたくさん聞きました。不安を感じる、

まだ子育て世代でない女性の方々のお話もたくさん聞いてまいりました。そういう方々に寄り添った対策を、待機児童は出さないのだという対策を進めていきたいと思っています。私自身、もし、保育の環境に恵まれなければちゅうちょしていたかもしれませんし、また、今どんなかたちでも子育てしていける、そのような手段がたくさんございます。そういう手段を使って、やはり将来の子どもたちのために挑戦していたかもしれません。様々な選択肢があったことだろうと思っています。今日に至るまで決して平たんではない、紆余曲折あった経過があり、ここに立っているということです。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

町長も一般の勤め人と同じことだという言葉に私はちょっと疑問を感じたのです。やっぱり町長と一般の勤め人とは違うのであろうなと思っています。しかし、町長がその立場になり切れているということで、本当にその切なさを実感していただき、スピード感を持って進めていただけるということに期待をしたいと思います。そこで、先ほど答弁をいただきました新しい保育園の建設計画の年次計画ですが、私の聞き違いかもしれませんが、「平成 29 年度中に 1 園にするような構想」という答弁をいただいたかと思うのですが、これは平成 30 年度中にという意味でしょうか。用地交渉等々も含めて。

議長（草津 進）

教育長。

教育長（桑原 正）

石田議員におかれましては、この新保育園建設問題につきまして、ずっと私どもに「何をもたもたしているんだ。早く進めよ。」とげきを飛ばしていただいておりますことに感謝申し上げます。思いとしては、以前から申し上げているとおり教育委員会も一緒でございます。この平成 29 年度中にとというのは、ちょっと誤解を招きますかね。平成 29 年度から話を始めたということです。そして、今、地権者との交渉の最中というのが現実でございます。町長の答弁のとおり、地権者の理解を得、契約書が交わされた段階で議員の皆様方にお尋ねの件について整理し、お示しし、理解を得たいと、このように考えております。よろしく願いいたします。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

用地交渉等々の段階ということですので、はっきりといつどうするということはないのかもしれませんが、それは1園にするという計画ですか。全町1園という。

議長（草津 進）  
教育長。

教育長（桑原 正）

これもやや言葉が足りませんね。今後10年、20年先を考えた場合、1園になってもいい新しい保育園を造る、そういう方向でということです。現実には、昨年度の一般質問でもございましたけれど、上郷地区、芦ヶ崎地区におかれましては、保護者からの理解が得られていないという判断から、当面、統合は考えないという答弁をしたところでありますので存続いたします。仮に、残りの中央部が学校統合等の関連がありませんので、保護者・地域の理解が得られた段階で統合は進められると、このように判断しておりますので、現実的には数年3園で進むということになるろうかと思えます。今、私どもが造るために計画しておりますのは、やがて上郷保育園、あるいは、わかば保育園が統合してもいかなりの規模のものを造るということでございます。ですから、これも既に答弁しておりますけれども、保護者・地域の理解を得られた所から順次統合を進めたいと思っておりますのでございます。新保育園建設につきましては、先ほどの町長の答弁のとおりでございます。

議長（草津 進）  
3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

では、その新保育園建設について伺いますが、いったいいつ開園の予定ですか。

議長（草津 進）  
教育長。

教育長（桑原 正）

一応、めどは付けておりますけれども、これも先ほど町長が答弁したとおり地権者とのお話合いが固まり次第お示ししたいと思っておりますので、御理解いただきたいと思えます。

議長（草津 進）  
3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

時間が無くなってきたので、財源について伺います。今までずっと教育長とやり取りさせていただいて、私は早く早くというやり取りの繰り返しだったのですが、そこ

の中には、やはり財源確保はできないという事情があるというふうに、もちろん、上郷保育園、わかば保育園の保護者の皆様方の理解もというようなこともありましたけれども、大きくは財源確保はできないという事情があると伺っていたのですが、この財源の見通しを伺います。

議長（草津 進）

教育次長。

教育次長（上村栄一）

財源の見通しにつきましては、以前からも質問にありましたように補助金等が全くつかない状況でございまして、有利債である過疎債を充てていきたいということで、今のところ町当局とも相談を重ねております。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

町長任期4年の間に新しい保育園を建設するというなかで、財源の見通しは今ありませんという状況でしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

任期4年の間に新保育園を是非建設していきたいと考えております。そのためには、先ほどからも申しておりますように全事務事業の見直しが必要であると思っておりますし、津南病院の経営改善も必要だと思っております。様々な課題を克服していくなかで、なんとか財源を生み出していきたいと思っておりますし、有利の交付制度を使っていきたいと思っております。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

財源については、今の答弁だと決まっていけないような話をしていますが、まず、過疎債を使わせていただきたいと考えております。ただ、これも当然、県・国と協議が必要でございますので、今、何年に幾らオーケーですよという話はできませんが、ある程度用地交渉が決まった段階で、この次のスケジュール、実施設計がいつ、建設に何年というようなものが出てきた段階で、また県と十分に協議をさせていただき、過疎債の確保に努めていきたいと考えております。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

そうすると、新しい保育園建設というのが、なかなか計画がいつかというところが今明言できないという状況だということですが、こういった状況のなかで待機児童解消という、当然、保育士さんは今非常に不足している状況ですよね。待機児童解消というものが約束できますか。

議長（草津 進）

教育長。

教育長（桑原 正）

待機児童が生まれるのではないかという予測は、もう当然あったわけでごさいます、そのためにも早く新保育園を含めた統合整備を進めたいと、こういうことで数年やってまいったわけでごさいます。ここで今年度、とうとう待機児童が生まれてしまったわけは、0歳児を預ける保護者がこちらの予想以上に多くなったということが一番の原因でごさいます。解消するには、保育士を探すしかない状況です。6園のまま待機児童を出さないようにするには、保育士を必要なだけ、どれだけ確保できるかということなのでごさいます。御承知のように年齢が下がるにつれて、1人の保育士が担当できるお子さんがどんどん減るのです。0歳児は、1人で3人が最大でごさいます、4人いたら2人必要と、こういうことで、どんどんたくさん保育士が必要になります。今現在、1名が待機している状況なのですが、4月以来も諦めず保育士確保に努めてまいりまして、なんとか残り1名になったという状況でごさいます。ですので、早く解消したいのは私どもも一緒でごさいます、ハローワーク、あるいは、人づてに情報を集めながら、まだ確保に奔走している途中でごさいます。

以上です。

議長（草津 進）

3番、石田タマエ議員。

（3番）石田タマエ

待機児童解消というのは、誰もが早急に進めていただきたいという気持ちは一緒だと思います。ただ、今ほど、いろいろ御答弁をいただいたなかでは、なかなか新しい保育園もはっきりいつ開園できるかは明言できないという状況であり、来年の状況がどうなるのかは分かりませんが、そういう状況で、町長御自身も非常に子どもを預かってもらえる状況が、待機児童を抱えているという親御さんの気持ちはよくお分かりになっていらっしゃると思います。このまま事務的にいつになるか分からないというのをいつまでも引っ張っていくのではなくて、まさに町長が言っているように

にスピード感、これを一番私は求めたいと思います。御自身のこととして、スピード感を持って進めていただきたいと思います。

終わります。

---

議長（草津 進）

昼食のため午後1時まで休憩いたします。

—（午前11時56分）—

—（休憩）—

会議を再開し、一般質問を続行いたします。

—（午後1時00分）—

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

まずはじめに、西日本大災害で亡くなられた方々に本当に心より哀悼の意を申し上げます。また、災害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げたいと思います。また、傍聴の皆様、午後になったら急に少なくなりがっかりなのですが、暑いところ御苦労様です。

通告に基づいて一般質問をしたいと思います。

1. 3点あるのですが、まず1番から。「ぐっと前に進める政策」、津南を船に例えて面舵いっぱいということだと思いますが、これから4年間、しっかりと頑張っていたきたいと思います。まず、このぐっと前に進めることなのですが、抽象的でどこをどう進めるのか、具体的に説明をしていただきたいと思います。農業、観光、津南病院、町長は、「私には友人や知人の中にすごい頼りになる人がいる。」という、「シンクタンクがある。」ということを言うておりましたが、どのような人々がどのようにサポートしてくれるのか、聞きたいと思います。
2. 次に、町の人口維持政策を具体的に示してもらいたい。
  - （1）今のままでは1年間に百何十人か人口減が続く。定住者をどう維持するのか伺います。
  - （2）若者定住は、どのように行うのか。具体的な考えを伺います。
  - （3）町は人口維持の特別の課を設けて対策に乗り出すべきと思うが、私は、上村町長の時も小林町長の時も、特別にそういう対策室を設けるように言うておりましたけれども、実現しませんでした。桑原町長は、この人口問題をどのように取り組むのか伺います。
3. 3点目です。今回の町長選挙について。今回の町長選挙は、3候補の激戦でした。本当に御苦労様でした。この選挙は、一人ではできません。支持者は、いろいろな考えを持って候補者の支援をしていると思います。支持者一人一人の考えは、候補者に分からないと思いますが、この選挙はクリーンな選挙であったか、町長の率直な感想を伺います。  
壇上では以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

大平議員にお答えいたします。

私の基本政策である「ぐっと前に進める政策」についての御質問であります。

1点目の農業について、所信表明でも申し上げましたが、私が考える町づくりのキーワードである「希望のまちづくり」の一つの柱と考えております。大規模農家も小規模農家も共存・共栄できるような、津南町に合ったもうかる農業を進めてまいります。具体的には、農業に精通した人材を町に置き、他に先んじて策を打てるように生産者と共に営農、経営、販売戦略などを練り、津南町に合ったもうかる農業を目指してまいります。また、農業専門の人材は、生産者がまとまって法人化を進めるときも相談に乗りながら、必要な支援を行っていきます。昨今の国内における異常気候変動を重大な問題としてとらえ、気象情報の利活用を進めることにより、気象変動に余り影響の受けない津南町に合うような新たな品種を研究・検討し、導入できるようにしていきます。訪日客、インバウンドが増加している現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックが終わった後は、今までゴールデンルートと言われた東京や京都から地方に海外のお客様が流れ、津南町にも必ず多くの外国の観光客が増えることを考えております。海外のお客様に津南町の安全・安心な食を提供するため、農業生産者と宿泊施設、飲食店が連携し、地消地産の取組を進めていきたいと考えております。

二つ目、観光についてです。私が考えるもう一つの町づくりのキーワードに「参加できるまちづくり」があります。現在、国が観光戦略の柱として推し進める日本版DMOの取組がありますが、津南版DMOの設置に向けて行政としても支援をしてまいります。この津南版DMOは、観光事業者だけのためではなく、多様な町民が笑顔になれる地域づくりのために、観光を使って津南ブランドを確立するというものです。設置に向けて、現在ある津南町観光協会をベースにするか、併存するか、新たな組織を立ち上げるか、手法はただ今検討中ですが、基本的に様々な業種の多くの方々が携わり、民間ベースで設立し、町民からふつふつと湧き上がってくる力を大切に、そこに行政がサポートするようかたちを考えております。県内外のDMOの調査・研究を深め、津南町の特色・特徴を生かした津南DMOを支援していきたいと考えております。また、津南町の特徴である文化を観光資源に活用してまいります。栄村との苗場山麓ジオパーク、信濃川火焰街道連携協議会、新潟市、三条市、長岡市、十日町市、津南町での日本遺産認定、7市町村でブランド観光地づくりを進める雪国観光圏など広域連携で進めている事業のテーマでもある雪国文化と縄文文化を他に負けない独自価値として深く掘り下げ、ブラッシュアップし、洗練度を上げることにより国内外への発信を加速させ、誘客の増加につなげていきたいと考えております。

三つ目に津南病院です。「どう具体的に取り組んでいくのか」というお尋ねです。私は、各地域で「医師確保をしっかりと行って、多くの非常勤医師に頼らざるを得ない今

の津南病院の診療体制、救急体制を改善したい。」と訴えてまいりました。そのために私は、何度でも直接、東京慈恵会医科大学や自治医科大学、関係機関へ足を運び、医師確保に東奔西走する覚悟でございます。私は将来的には、地域に根差した津南病院の立ち位置というものは、様々な専門領域の診療科を揃えて地域医療を行うことよりも、まず、一次医療をしっかり担う掛かり付け医としての診立てと看取り、健診、疾病予防対策強化が、担うべき役割ではないかと思っております。したがって、専門領域の診療科は、徐々に総合診療科へと集約していくことや、在宅医療を充実させていくことが今後の具体的な取組目標ではないかと考えているところです。

四つ目に、「具体的に進めるシンクタンクは誰なのか」というお尋ねであります。町にとって有益で効果的な情報をいち早く収集することは、町政を進めていくうえで大変重要なことであり、また、情報は早く入手すればするほど、その対応を検討する時間がより多く持てます。限られた職員数の中で多様化・複雑化する町民ニーズを把握し、国・県の政策に照らし合わせ、かつ、独自性のある政策を行っていくためには限度があり、今まで培ってきた国・県・民間の様々な方々、機関と連携し、情報を取捨選択するなかで、町にとって有益なものを活用していきたいと考えております。先週は、国・県へ就任御挨拶、そして、第1回の陳情活動を行い、県選出の国会議員の先生方、花角県知事、県副知事、各部長の方々とホットラインを結び、支援をお願いしてまいりました。来週は、総務省職員との会合を予定しております。上村前町長のパイプを活用させていただき、私のパイプも太く強くするなかで、町が必要とする政策を進めてまいりたいと考えております。議会の皆様からも御提言御指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。いずれにいたしましても、幅広い人材、機関とのつながりを構築・リンクさせ、町づくりを進めていきたいと考えております。

次に大きな2点目、「町の人口維持対策を具体的に」というお尋ねです。

1点目、「町の人口維持政策について、定住者をどう維持するのか」という質問です。平成29年の出生数は57人と、死亡者173人、転入者193人、転出者260人となり、1年間で183人の減少となっております。ここ数年200人前後の減少となっており、人口減少のスピードを緩やかにするような抜本的な施策はなかなか見いだせないのが現状実態でございます。平成27年度に策定をした、津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略や津南町総合振興計画に掲げている事業を今一度精査し、国や県の補助事業を積極的に活用するなかで具現化してまいりたいと思っております。こうした施策というものが着実に積み重ねられ、地域が元気になれば、若者も関心をふるさと津南により強く示していただき、都会から戻ってきたり、地域に住み続けていただく、そうした事例が一つ一つ増えていくようにと考えているところでございます。現在、そうした視点に立ち、上郷地域や中津地域、三箇地域で地域が連携し、地区振興協議会による地域づくりが進められておりますが、このような活動は、人口維持対策としても極めて重要であると考えております。また、小さな頃から将来に向けた人生設計をイメージすることがとても重要になります。仕事だけでなく、結婚、出産、子育てを意識する機会、教育委員会と連携しながら、人生設計を津南町の子どもたちが具体的にイメージしながら、ここで学び、育っていくように支援していきたいと思っております。また、人口減少を少しでも緩やかにするには、独身男女の交流が重要と考えております。

出会いの場のイベントを継続して開催していきます。平成 29 年度は、お隣の栄村と合同でイベントを行い、6 組のカップルが生まれました。平成 30 年度も自分の魅力度アップのためのスキルセミナーを男女 2 回開催を予定しており、その後、昨年と同様に広域での出会いの場のイベントを開催する予定、それに対して支援をする予定としております。

二つ目に、先ほどと関連いたしますが、「若者の定住はどのように行うのか」という御質問です。若者が定住するに当たって、まず、雇用の場の確保が大切だと考えます。ハローワークや十日町地区雇用協議会と連携しながら、ホームページなどを活用した企業情報の発信、私も先頭に立ち発信していきたいと思っておりますし、学生さんの企業訪問の支援を進めてまいります。また、専門学校であったり、大学教育であったり、そのような高等教育を受けてきて、就職する場がないという声をここ数か月間、たくさんいただいてまいりました。今、働き方改革とあいまって大企業の目が地方に向いております。サテライトオフィスやテレワークなど、企業誘致に関しても果敢に取り組んでいきたいと思っておりますし、また、就任以来、幾つかの企業の方から有り難いことにラブコールもいただいております。若者が子育てしやすい環境整備といたしまして、新保育園の建設に早期に取り組み、待機児童を解消することによって子育て夫婦が働きやすい環境を作ってまいります。また、子育て中の親たちが行き詰ってしまったときに育児中にほっとできる場づくり(カフェなど)を進めてまいります。さらに、新規就農者の御夫婦からも聞かれた声でございますが、子どもを預け合うことができる昔ながらの仕組みを今風に検討し、新規就農者や核家族世帯のニーズに応えられるようにしてまいります。これまでの定住施策として、津南町へ移住・定住してくれる世帯に対して、基本額として 10 万円、配偶者加算、子育て支援として 1 人につき、ひとり親世帯、起業される世帯に対して、それぞれ 5 万円を支援することにし、併せて住宅を取得する世帯に対して 50 万円を上限として補助行う定住促進助成事業を進めていきます。また、その PR も一生懸命先頭に立って行ってまいります。一人、また一人、一家族、また一家族と地域の起爆剤となっただけの方を増やしていきたいと思っております。

「人口維持のために特別な課を設けて対策に乗り出すべきと思うがどうか」というお尋ねであります。人口減少対策は、町の重要課題、喫緊の課題と私自身も深刻に危機感を持って捉えております。上村前町長が 3 月議会で藤ノ木浩子議員にもお答えしておりますが、私も人口対策は、子育て支援、移住・定住対策、婚活対策、教育力の強化など、様々な対策を組み合わせながらオール津南で総合的に取り組む必要があると考えます。情報共有をしながら全ての課・班を挙げて取り組まなければならない課題と認識しております。職員数にも限りがあるなかで専門部署を作るのは難しいことですが、人口減少が一番の元となっている重要課題であるということは全職員に徹底し、全庁挙げて取り組んでいかなければならないと考えております。

大きな三つ目に、「今回の町長選挙について」でございます。今回の町長選挙につきましては、3 候補がしのぎを削り、大変激戦であったと思っております。それぞれの候補者及び選挙対策事務所の皆様、大変お疲れ様でした。今回の選挙につきましても公職選挙法に基づき、公平公正な選挙が行われたものと認識しております。

以上です。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

それでは、1番のほうから再質問をさせていただきます。ぐっと前に進める政策の件ですが、農業と観光、今の地域振興課を二つにするような案を考えておられたと私は認識しておりますけれども、そのようなことを本当に考えているのでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

他の議員の質問にもありまして、後日お答えいたしますが、それは真剣に考えております。今、地域振興課の中、重要な課題がたくさんあり、仕事量としても重くなっております。また、農業者、観光事業者、商工業者、それぞれの関係者に対して頼りになる専任の課がやはり重要だと、必要だと考えております。そのようななかで課をこれから再編成するというを具体的に詰めて、なるべく早い段階で皆さんにお諮りし、また、その前に十分相談しながら皆さんと進めさせていただきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

農業のことなのですけれども、専門の人を一人置いていろいろな対策に当たらせるということなのですけれども、そのような人の目星は付いているのでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

この政策を作るに当たり、もちろんいろいろな目途はあったうえでこれを掲げました。これからどのようなお立場にお付きいただくかなど詳細に検討いたしまして、これも課の再編と併せて皆様に御相談申し上げたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

そのような大事なことは、相談してもらってやってもらうのが正しいのですけれども、その人の立場というか、身分的にはどういうことを考えていますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

これも確か、明日の村山道明議員の質問にもございますが、報道等では参与職という言葉もございましたが、そういったことも念頭に、どのように関わっていただくのが良いか、皆さんと相談しながら考えていきたいと思っておりますし、議員の皆様も農業立町として日々農政が変わるなかで、このままで良いというふうに思っている方々はいらっしゃらないかと思っております。今後も農業立町として高らかに掲げ続けるために、皆さんと相談しながら進めさせていただきたいと思っております。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

農業のことになりますと、農産物のブランド化というのがどの候補も言っていたわけですが、そのブランドというのは、ある程度年間を通じて出荷、それから、味とか品質が揃っていないとブランドというのはなかなか作られないわけですが、どのようなかたちでそういう商品をブランド化させる具体策というのは考えておいででしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

選挙期間中は、販売にもう少し力を入れたらどうかというお話をたくさんいただきました。それもまた重要なことと思っておりますが、私も大平議員のおっしゃるとおり品質や生産量が安定して出ていくことがブランド化には必須であると思っております。そのようななかで、是非これから農業専門の人を町の中に置くなかで、県の普及センターや各集荷業者の方々と連携し、また、各農家さんのお話も聞きながら、農業専門の人が核となって、触媒となって、より品質の高い産品作りに向けて策を打っていききたいと思っております。特に昨今、気候変動の影響がますます感じられる今日です。そのようななかで少し先を見て、例えば、これからこういう品種で向かってみる必要があるんじゃないだろうかなど、具体的にこれから農政を進めていけるように体制づくりを整えさせていただきたいと思っております。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

(9番) 大平謙一

コメをはじめ、そうやってブランド化というのは重大な津南の農産品の販売方法だと思いますので、町長が先頭に立ってセールスをやるということなので、忙しいかも分からないけれども、忙しくてもそういった津南町が豊かになる、それが基本ですので、是非とも頑張ってもらいたいと思っております。

次に観光ですが、インバウンドというのがずっとさげばれておりまして、外国人観光客が津南にも将来的には来る、来てもらわなければならないという、それは本当に大事なのですが、町長が言うておりました、津南の文化を観光に取り入れるという、そのところは、文化と観光はどう結び付けるつもりなのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

私も議会人でしたので、大平議員のこれまでの御質問も聞いております。そういうなかで、どのようにこの文化をこれから観光資源に生かしていくかというお尋ねですが、例えば、体験であったり、それから、キャッチコピーの打ち出し方、統一したブランドとしての管理ができるようにしていきたいという考えです。今までは子どもたちの教育に、この雪国文化や縄文文化、大きく寄与してまいりました。この方向は続けつつも、これからは観光にも寄与するようにしていきたいと思っております。ただ、ターゲットとして、東京ディズニーランドに行きたいという人をターゲットにするのではなく、本当に価値を分かっていただけの人、例えば、それこそインバウンドの方々がそうです。そういうターゲットの絞り込みをきちんとして、戦略を立てて進めていきたいと思っております。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

(9番) 大平謙一

観光を津南のある種の集客の元にしていくという、お客さんが来てくれないと話にならないわけなので、いかに津南を売り出していくか。そのところの宣伝の方法なのですが、町長が考えている方法というのは、どのようなことを一番に考えているのでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

情報発信ですか。 —（大平議員「はい。」の声あり。）— 今まで、他の自治体ではよくあることだそうですし、うちの自治体でももしかしたらあるかもしれませんが、農産物の販売と、観光誘客と移住・定住のキャッチコピーが全部バラバラで、ブランドとして統一したものでないという事例がよくあります。そうではなくて、きちんと雪国文化・縄文文化ということを軸に全ての施策が津南ブランドとして打って出せるように、少しブランド管理をさせていただきたいと思っているのです。例えば湯布院。有名ですが、宿泊単価は、1泊2万1,000円だと聞いています。全国の宿泊単価の平均は、1万1,000円。1万円の差があります。この差がブランドだと思っています。ブランドとはなんなのかというのは説明しにくいのですが、簡単に説明するとそういうことです。津南町も湯布院並みに、あるいは、有名なブランド並みに有名になっていくように、これから文化というのを軸にブランドの管理をしていきたいと思っています。物産の面だけではなくて観光にも、そして、最終目標としている移住・定住にもつながるように、統一したキャッチコピーを打ち出せるようにしていきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

先ほども雪国観光圏というのを大事に考えているようですけれども、それは本当にこの地域の観光の集約ですので、雪国観光圏を私はもっとぐっと活用してもらいたいと思うのですけれど、そこらの各市町村との連携は、今後どのように密にしていくのか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

やはり1町ではなかなか市場調査、先ほども申しましたがマーケティング、どういう層に打って出ていくかという調査はなかなか難しいです。ただ、広域でまとまると、雪国観光圏などは特に海外へのマーケティングを得意としております。海外のどのような層にいけるのかという調査。雪国観光圏に頼るようなかたちで、津南町は津南町で独自のこの文化を磨き上げていくという役割分担で進めていきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

次に、津南病院の件ですが、先ほども答申に沿った考えを重点的にしながら、お医者さんの確保、それが赤字減少につながることで、来月、東京慈恵会医科大学に行くというお話ですけれども、なかなかお医者さんを簡単に連れてこられるということは少なく、町長が言っていました海外に留学をとということで、お医者さんの卵とかヒヨコを連れてこようという考え方だと思うのですけれども、その経費というのはどのくらい見込んでいるのでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

医師確保は、この新潟の県立病院も大変苦勞していると聞いております。そういうなかで、私が石田議員にお答えしましたように、これから国の、今日恐らく成立している医療法、医師法の改正の状況なども踏まえながら、津南町にあった事業は積極的に活用して、医師確保に向かっていきたいと思っています。参考にデータですが、今、毎年9,000人前後が全国の医学部を卒業いたします。国家試験の合格率を考えると、8,000人超が毎年お医者さんになっております。そして、あと15年くらいは、リタイアのお医者さんが毎年約3,500人程度、そして、そのあとは、6,000人程度が見込まれております。今後15年くらいには、年に5,000人ほどの医師の自然増が見込まれます。お医者さんがこれから増えていく。特に都市部では、5年から10年の間に医師過剰の時代を迎えるということがございます。ですので、これは津南病院の問題だけでなく、全国的な課題となっておりますので、国の動向を踏まえながら、私自身も積極的に動くようなかたちで津南町に合った施策を導入していきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

将来的に5,000人も過剰になってきて、毎年お医者さんが増えてくるという事態になるまでの間、まだ非常に長い期間があるわけです。その間、やはり津南病院がしっかり維持できるという方策を取ってもらわないと、そこまでもっていかないうちに駄目になってしまうということなので、まず、常勤のお医者さんをいかに確保するか、これが皆が考えていることだと思います。診療科の数は若干減らしても、しっかりした診立てのできるお医者さん、先ほど町長も言っていましたけれども、何しろ診立てが大事であって、病気を見逃さないという問診が一番だと思うのです。その問診のしっかりできるお医者さんと呼んでもらいたいと私は思うのですけれども、どうでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

先ほどの答弁でも申し上げましたが、早速、東京慈恵会医科大学さんにお邪魔させていただくとともに自治医科大学さんにも訪問させていただく。そして、来週は、十日町病院さんともお話をさせていただく予定です。関係機関に私が直接足を運ぶことで、地域の実情を説明して御理解を得ていきたいと思っております。責任を持ってやらせていただきます。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

本当に病院が診療所になったのでは、津南の住民ががっかりしますし、本当に困った時代になりますので、そうならないようにしっかりと計画を立てたり、病院の看護師さん、お医者さんに、患者さんにやさしくしっかりした対応をしてもらおう。それがまず、病院を安心して行ける所だと皆さんが思う原因になると思うのですが、そこらの教育をどのように考えているか、お願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

病院組織の活性化は、私もとても重要だと思っております。各機関と人事交流などできる機会があれば、積極的に行政としても支援していきたいと思えますし、具体的なこととしては、病院事務長から申し上げます。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

院内の職員の接遇ですとか、あるいは、患者対応についての力量アップというようなことなのだと思うのですが、今、具体的には、魚沼基幹病院等を中心としまして、そういった長期にわたる人事交流等の計画もありますので、そういった所には積極的に今後参加できるような機会があれば参加したいと思っております。院内・院外通じて、そういった接遇の研修ですとか、そういったものも併せてやってまいりたいと思っております。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

(9番) 大平謙一

ある候補は言ったのですが、地域座談会みたいな所に病院の院長さんとか事務長さんとかが行って、直接住民の意見等も聞いてくるというようなことは考えていますか。

議長 (草津 進)

町長。

町長 (桑原 悠)

病院のことは、病院の事務長がお答えさせていただきますが、私としても医療問題にかかわらず、現場に出向く姿勢で貫いていきたいと思っていますので、御指導よろしくお願いいいたします。

議長 (草津 進)

病院事務長。

病院事務長 (桑原次郎)

昨年の答申をまとめるための12回の会議の中で2回目でしたか、3回目でしたか、十日町(病院)の吉嶺院長先生から来ていただいて、お話を聞く機会がございました。その時に非常に地域の住民と密接な関係を持った地域医療をやっているなど感じたのが、ナイトスクールというものを定期的にやって、住民の方から参加していただいた、そういった活動の話も披露していただいたわけです。阪本院長も気持ちはどんどん地域の中に出ていきたいというようなことも思っておりますので、そういったことも参考にしながら、地域の皆さんとより身近な関係を持ったなかで地域医療を進めていきたいと思っております。

議長 (草津 進)

9番、大平謙一議員。

(9番) 大平謙一

4番に入ります。町長のシンクタンク、これは非常に町長も頼りにしているのではないかと考えておりますが、これらの人を活用するというのは、今のホームページとかパソコンの中でのやり取りになるのでしょうか。直接来てもらったり、行ったりするという交流というのは考えているのでしょうか。

議長 (草津 進)

町長。

町長 (桑原 悠)

県に御挨拶に行った時、副知事さんのお三方とは、直接携帯のホットラインを結ばせていただきました。冗談の話ですが、「町長さんの部屋はいつでも立ち寄っていいそうだが、僕の部屋もいつでも来ていいんですよ。」という有り難いお言葉もいただきました。是非、直接顔を合わせたりして議論を交わしながら力になっていただきたいと思っておりますし、また、何よりも私もともと議会人ですので、議会を大切に、皆さんと一緒に津南町を作らせていただきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

では、人口維持のほうに移りたいと思います。参考資料で、1年に160人から200人も減っているという現実。そうしますと、町長の任期中にも800人も減ってしまうというようなことなのですが、これらの現実、これは非常に厳しい話なので、簡単に言葉では人口の維持を図りたいというのは分かりますけれども、なかなか現実的にこういう人口構造になってしまっているのです、そこら辺りの対策は、どのように考えていますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

答弁でも申し上げましたが、特に地域の方々からたくさんいただいた声で「高等教育を受けてきて、就職する場がないんだ。」という声がとても印象深く残っています。そのようななかでは是非、これから起業支援ももちろんなのですが、引き続き企業誘致にも力を入れて、一つでも成果を出していけるように一生懸命働かせていただきたいと思っています。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

人口減少を食い止めるというのは難しいのですが、先ほども出ていました、小さいうちからこの地域を守っていく、自分の家を守っていくという教育をしなければ、やはり駄目だと思いますし、企業にも地域に残ってくれる人が非常に大事なので、ちょっとくらい兼業で休んでも文句を言わないように、そういうものを認めてもらうように、町長のほうから企業のほうに話してもらえると助かるのですけれど、どうでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

その問題にかかわらず、本当に企業訪問は定期的にさせていただきたいと思っております。そこで待遇改善などお願いできることはお願いしていきたいと思っております。以上です。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

企業誘致という言葉は、最近余り町長の言葉としては聞いていませんでした。企業誘致は難しいという一言で片付けられていたわけですがけれども、本当は企業誘致が一番効果があると思いますので、そこら辺りのほうは、さっきラブコールあったみたいな話もあるので、そういうものをしっかりつなげていってもらいたいと思います。それは、どの課が中心になってそういうものを進めると考えておりますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

昨今、工場型の企業誘致は、なかなか難しい状況にあると思っております。そういうなかで、これからITを活用した企業であるとか、先端技術の企業、そういう企業の皆様方から是非津南町に入ってください、新しい流れを生み出していただきたいと思って活動していきます。お尋ねは、—（大平議員「何課がそういうものを担うか。」の声あり。）— 今まで商工観光班が担っていましたので、そちらになるかと思っております。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

人口維持の3番目に、特別の課を設けてというふうに、結局、特別な権限や何かをもって当たらないとなかなか難しいのではないかとということで、そういうものを。人数を増やすのは難しいという話ですがけれども、そののところをなんとか増やしたり、各課からそれに秀でた人をそこに集めるとかして、なんとかそういう課はできないものではないでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

個人的な職員の勉強会は、様々な分野でやっていきたいと思っています。そして、町長としても、これからはプレーイングマネージャーといえますか、管理職であり、私もプレイヤーだという考えで、私が人口減少対策のトップを張るんだという気持ちで進めていきます。

議長（草津 進）

9番、大平謙一議員。

（9番）大平謙一

町長がトップに立つのがいっぱいあって大変だと思いますけれども、体を壊さないように頑張ってもらいたいと思います。

次に選挙の件で、これは余り一般質問にはそぐわないということと言われたわけですが、選挙というのは、一人でやるのではなくて大勢の人が集まってやるわけで、先ほども言いましたように、皆が何を考えて私を支持してくれているのか、何のために選挙に頑張っているのか分からないところもあると思います。選挙の中である候補者の病気のことが取り沙汰されて、非常に骨を折ったという経緯がありますので、なんとか今後そういうことのないような選挙をお願いしていかなければならないと思うわけです。クリーンな選挙は、選挙違反で捕まらなければいいというものではないと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で終わります。

---

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

それでは、通告の前に、激戦の末に得られた町長職。今後も私は期待もありますが、同時に大きな不安もあると思っています。住民に是非寄り添って頑張っていただきたいと思っています。午前中、かなり力が入っていたように思いますので、私も含めて是非肩の力を抜いてやっていきたいと思っています。

それでは、通告に基づいて2点についてお伺いします。

1. 一つ目ですが、ニュー・グリーンピア津南の今後について見解を伺います。

ニュー・グリーンピア津南について、前の上村町政は、ホテル部門も含め行政財産にする方向性を出していました。ニュー・グリーンピア津南の施設全体は約300haあり、ホテル棟をはじめグラウンド、キャンプ場など多くの施設と行政財産になったスキー場部門があります。そして、これらの施設以外が山林原野というニュー・グリーンピア津南の全体像であります。行政財産は、国・地方公共団体により、直接行政の目的を遂行するために供される公有財産であり、これにニュー・グリーンピア

津南はなじまないと思います。町長は、議員の時にスキー場部門の行政財産化に私たちと共に反対し、選挙前の集落座談会でも、「前町政が言う施設全体の行政財産化には反対であり、優良企業への売却も考えている。」と発言をしています。この発言は、選挙公約ともいえると思います。企業への売却は、スキー場の過疎債をどうするのかという問題もあります。簡単にはいかないともいますが、この地域の一大観光施設であり、今後も継続していかなければなりません。町の財政を圧迫するような考え方で進めていくのではなく、町長が言われるように、受託企業からは独立採算できるように努力を求めていくことをお願いしたいと思います。行政財産化に反対の考えに変わりはないか、お伺いいたします。

2. 大きい二つ目に、町立津南病院の今後の在り方と地域医療を本気で守ることができるかを伺います。

(1) 一つ目、この地域における慢性期病床の必要性について伺います。十日町・津南地域の入院ベッドは、平成28年以降、今年4月までに256床も削減されました。津南病院療養病床は、平成28年2月から休床、一般病床は、この3月議会で62床から45床へ条例改正され、この時、議員であった町長もこれに賛成しました。病床数は、信濃川筋の十日町・津南の全体で約40%も減少しています。入院ベッドがこの地域から大きく減少するなか、高齢化が進み、患者・家族も含め、遠方の病院への通院・入院は困難だと訴える声が多くあります。十日町・津南の地域医療を守っていくためにベッドの削減ではなく、入院ベッドを維持し、増床していくことが必要です。それが津南病院の役割と考えます。慢性期を含むベッド増床についての見解を伺います。

(2) 二つ目に、経営改善について伺います。今、魚沼医療圏の中で魚沼基幹病院は、454床のうち146床が休床です。信濃川筋の中条病院は、90床ありましたがゼロ。上村病院は、97床からゼロ。そして、診療所になり、津南病院は45床に削減という状況です。この4月以降、近隣の医療事情が大きく変わり、この地域の現状を見ますと津南病院の縮小は考えられず、経営改善のためにも入院ベッドの増が必要ではないでしょうか。3年前の経営診断では、「病床削減は経営悪化をもたらす。一般会計の財政運営と異なった視点で経営改善に取り組む必要がある。」と指摘をしています。病院収益を上げるには、医師・看護師を確保し、病床を増やし、入院収入の増が必要です。町長は、3年前の議員レポートの中で「病院問題は、上村町政1期目から最優先に取り組んでいただきたい問題だった。平成26年度1年かけて経営診断を行い、それを基に方向性を出すという流れになっている。町民にとってなるべく近い所にあるほうが良いというのは言うまでもない。しかし、地域医療を担っているのは、町立病院だけでなく、民間や近隣にも信頼できる医療機関がある。短期的には、総合病院であることにこだわらず診療科や病棟、長期的には、プロの病院経営を行う専属の事務職を育て、総合診療を加えた体制で地域医療を担うことではないか。」と、このように報告をしています。町長は、現在どのくらいの規模の病院を考えているのか。公設民営も考えているようですが、大きな赤字を抱えている病院の受け手がいると思われるのか伺います。町長は選挙前、病院について「いつまでも赤字を垂れ流すわけにはいかない。公設民

営も一つの選択肢。」と述べていましたが、選挙戦の中で住民の切実な声を聴き、病院の大切さを訴えるようになりました。大事な病院です。診療所化や民営化の考えを変えたと捉えてよろしいでしょうか。

(3) 三つ目、病床数の増減を簡単にできると思われるのか伺います。町長は選挙戦の中で「現状、ベッドが空いていれば削減。必要になったら増床していく。」と述べています。3階部分が休床のなか、必要に応じて開設できると、それもあり得ると理解してよろしいですか。入退院の状況は毎日変わり、十日町病院、魚沼基幹病院などからの転院や、施設からの入院もあったり、集団感染や災害など緊急の入院も考えられます。病床数の増減にはスタッフの配置基準が付いて回り、看護師の確保なども簡単にはできないと思いますが、どう頑張るのかお聞きします。町長は、入院ベッドの稼働状況の変化に対応する病床の増減が簡単にできると思われるのか、これも伺います。医師確保については、すぐ行動すると言われていますが、是非これは頑張っていたきたいと思えます。

壇上からは以上です。

議長（草津 進）

答弁を求めます。

町長。

町長（桑原 悠）

桑原洋子議員にお答えいたします。

「ニュー・グリーンピア津南の今後について」です。そもそも、あのニュー・グリーンピア津南の土地は、かつての自由民権活動家、桑原重正さん、私たちの地方自治の大先輩でございます。秋成村の村長を40年勤め、林業に力を入れました。その力を入れた林、それが今日のあのニュー・グリーンピア津南となっております。ニュー・グリーンピア津南につきましては、平成27年9月28日付けで賃貸借契約を更新し、平成37年9月30日までは現在の民間企業が経営を行うことになっております。施設は、建設以来30年以上が経過し、毎年度予算の範囲内で優先順位を付けて修繕を行ってきております。今後、大規模な修繕が出てきた場合、どのように対応していくかが大きな課題であります。私は、ニュー・グリーンピア津南が雇用の場であり、町内業者の食材や資材の納入場所であり、津南町のマストリゾートの中核施設であるということも十分に評価しておりますが、果たして人口1万人弱の町で将来にわたってあの施設を維持していくことができるか、との思いから、現状の公設民営でいくのか、売却にするのか、施設を廃止するのかなど、いろいろな選択肢があると思えます。私としましては、しっかりとした経営感覚を持ったリゾート経営のプロにお任せすることも一つの選択肢であるとの考えから発言したものであります。当然のことといたしまして、スキー場のリフト建設には過疎債を充当しておりますので、売却となれば、繰上償還について新潟県と協議が必要であるということも、私も当時から当事者でございましたので十分に認識しております。また、現在の借地期間中である民間企業が知恵を出し汗をかきながら誘客に懸命な努力をしておりますので、町としても他の宿泊施設との

公平性を考えながら、できる限りの支援は行ってまいりたいと考えているところであります。

二つ目に、「津南病院の今後の在り方について」です。

「津南町・十日町地域の医療を守るためにベッド数を増床すべきではないか。慢性期を含むベッド増床についての見解を伺う」というお尋ねでございます。私は、このベッド数について考えるうえで一番重要なことは、必要な入院治療に对应されているかどうかではないかと考えております。昨年のベッド稼働率について申し上げますと、県立十日町病院は、275床に対して78.6%の稼働率となっております。一方、津南病院の稼働率は、62床に対して52.6%の稼働率となっております。1日平均32.6床の計算となります。また、この津南・十日町地域が今後更に少子高齢化が進み、全体人口も減少傾向が進んでいくことが推計されることを考えると、ベッド数を増床して対応する必要性については、今のところ考えておりません。同様の理由から、津南病院の入院ベッド数を45床にしたことは、正しい選択であったと認識しております。また、慢性期の病床という見解でございますが、今月2日にあった地域医療構想調整会議の各病院から上がってきている平成29年7月の病床機能報告の資料では、議員も御案内のとおりですが、魚沼全体1,447床のうち慢性期142床に対して2025年の厚生労働省の推計数値との差はマイナス254床、新潟県との推計数値も同様にマイナス254床となっています。これに対して、急性期病床1,095床に対して2025年の厚生労働省の推計数値との差はプラス733床、新潟県との推計値との差はプラス710床となっています。この資料では、将来的に急性期病床が多すぎ、慢性期病床が足りない状況になっているということで、今後、調整会議の中で是正されていくものと思っています。このような状況のなかで、津南病院が果たすべき役割がおのずと決まってくるのではないかと考えております。いずれにいたしましても、患者動向を見極めながら対応していかなくてはならないと考えているところであります。私自身、県の地域医療協議会のメンバーとならせていただきました。地域の実情を正確にお伝えし、支援していただきたいと思っております。

二つ目に、「経営改善について伺う」というお尋ねです。「町長はどれくらいの規模の病院を考えているのか。また、「公設民営も考えているようだが、受け手がいるのか伺う」というお尋ねでございます。「入るを量りて出ざるを制す」は、どの政権であっても行政経営の基本だと認識しております。病床数を増やせば入院収益が増えるということにつきましては、私自身やや疑問を持っているところでございます。議員は、3年前の経営診断について言及していますが、その病床数について記述している部分では触れていない医療を取り巻く環境・状況についてが、これからの津南病院の経営に大きく関係してくるように思います。さらに、これからの地域医療は、それぞれの病院による完結型から魚沼医療圏圏域全体で医療を完結する方向に動いているようであります。そのために医療再編、医療のネットワーク化を進めて、それぞれの病院が病床機能、役割分担を担う方向で進んでいる現状下では、たとえ投資しても投資以上の収益は望めず、かえって人件費等の費用が膨らみ、収支悪化の要因になるのではないかと考えております。病床数を増やして、では、どのように経営していくのか、具体的な提案がございましたら、再質問で是非お伺いしたいと考えております。したが

まして、病院の規模、内容につきましては、今後の医療を取り巻く環境・状況をしっかり把握、分析しなければならないと考えています。また、公設民営の受け手につきましては、具体的な言及はできないところですが、経営改善のための一つの手法として検討しなければならない課題だと十分に認識しております。

次に、「病床数の増減を簡単にできると思うか伺う」という質問です。入院病床数の変更につきましては、3月議会で45床にする議案を可決していただきましたが、45床の病床数変更の議案提出に至る過程においても、かなりの時間を労して様々な検証や検討がなされたものと推察しております。一般病床の稼働病床が年平均35床程度になったのは、平成23年度からでございます。栗原議員がおっしゃるとおり、入院ベッド数の増減には、入院患者の動向や流行性疾患のための一定程度の余裕ベッド数をどの程度確保するか、稼働病床数の推計をどのように行うのか、入院ベッドの増減に伴う医療スタッフの増減ができるのかなど確認しながら、現在の病床数にこだわることなく増床も減床もできるという趣旨で申し上げたものであります。

以上となります。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

それでは、ニュー・グリーンピア津南のほうから再質問をさせていただきます。ニュー・グリーンピア津南施設全体が300haからの広大な観光施設であります。今後も維持をしていかなければならないというわけですが、行政財産としてどうなのか、なじむのか、なじまないのか、この議論については、まだ全く深まっていないと思うのです。町長も言われてきたように、住民や議会ともよく相談をしながら進めていくことが大事かと思えます。今の答弁にもありました、少し良かったと思っているのですが、優良企業にということも考えていらっしゃるようではすけれども、今、任せている（株）津南高原開発がその優良企業の中に含まれるのか、私は判断を持ちかねていますが、優良企業にということに関しては、どのようにお考えですか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

今の経営者の方々ももちろん含まれると思っております。引継ぎにおきましては、前町長から「今後については他の選択肢もあるが、平成36年9月までは今の賃貸借契約が続いており、慎重に検討してほしい。」という引継ぎを受けております。よく今後、皆さんとこれについて相談させていただきたく存じます。このまま7年が経過いたしますと、施設も老朽化してまいります。この施設をどうするか、津南町の最重要課題の本当にそのうちの一つと思っております。皆さんと引き続き議論をさせていただきたいと思っております。

議長（草津 進）

6番、栞原洋子議員。

（6番）栞原洋子

もちろん議会も含めて住民の皆さんと検討を深めなくてはいけないと思います。行政財産化には反対ということも確認をしたいと思いますが、行政財産化には反対、慎重ということですか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

私が公に行政財産に反対したということは記憶にないのですが、ただ、今の公設民営、行政財産化、売却、あるいは廃止、様々な選択肢があると思っております。その中での選択になろうかと思えます。

議長（草津 進）

副町長。

副町長（小野塚 均）

行政財産化については、先般の全員協議会でも説明したとおり検討するというような話でございます。それを受けてすぐ行政財産にするということではありませんので、先ほど言ったように一つの選択肢として検討をいたしますということでございます。

議長（草津 進）

6番、栞原洋子議員。

（6番）栞原洋子

町長は、議員の時にスキー場部門の行政財産化に私たちと一緒に反対をしたわけです。—（桑原町長「反対していません。」の声あり。）— 行政財産化にです。相談に我が家にも来ていただいたこともあります。そして、選挙前の集落座談会、そこでも「前町政が言う施設全体の行政財産化には反対であり、優良企業への売却も考えている。」と発言をしているのです。これは選挙公約と受け止めていますけれども、違いますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

私は、スキー場部分の行政財産化には反対はしていなかったと記憶しています。私もあとでよく調べてみたいと思います。そして、今後のことですが、引継ぎを受けた本当に重い課題の一つですので、ここではっきりとしたお言葉を申し上げられなくて、大変私もじくじたる思いでいるのですが、今後、あの施設を維持できるかできないかも含めて議会の皆さんと一にして議論させていただきたいと思っています。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

先ほども答弁があったと思うのですが、施設の維持に対しては、これは公開討論会でも町長は言っているのですが、「住民の皆さんとよく相談をして考えていく。しっかりした考えを持った資本力のあるリゾート経営のプロにお任せしたい。」というようなお話もしているのですが、違いますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

それは本当です。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

今、運営をしている(株)津南高原開発にすぐ辞めてもらって優良企業ということではなくて、従業員の方もいますし、むげにはできないと思うのです。そこら辺をこれからよく検討は必要だと思いますが、やはり町の財政も圧迫するような状態もありますので、今後、しっかりと住民の皆さんや議会とも、行政財産化については議論を深めていく必要があると思います。優良企業ということで町長のほうからも提案があれば、その辺もお話を聞かせていただきたいと思いますけれども、少し選挙前と考え方が町長になられてから変わったのですか。少し何か言われていることが変わってきているのかなと思います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

いえ、私は変わっていません。正直なところ、指定管理者制度、全施設でこれを抱え

続けていくというのは、なかなか厳しいものがあるということは認識しています。では、どういう選択肢があるのか、そのうえでリゾート経営のプロにお任せするのも一つの選択肢であるし、あるいは、もう維持できないよというのも一つの選択肢かもしれません。ただ、今様々なイベントが開かれる拠点の地であり、せつかく周辺的环境も素晴らしいものがあります。できればあれを生かしていきたいと思うなかで、今後の運営、本当に私も薄氷を踏むような毎日で過ごしています。本当に常々考えております。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

先ほど、副町長も指定管理者制度のお話をしていましたけれども、行政財産化についての議論が深まっていないなかで指定管理者制度のほうが先行していると思うのです。もっともっと議論をして、それから指定管理というのは後に付いてくることで、行政財産化にするということをもっと深める必要があります。町長、そうではないでしょうか。町長に答えていただきたいと思います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

すみません、もう1回お願いします。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

副町長が指定管理者制度についての検討会を立ち上げるというお話をしていましたけれども、その話もまだ会議も開いていないようですが、行政財産化がまず先だと思うのです。指定管理者制度が先行するのではなくて、行政財産にするべきか、それに当たるのかどうかということも、しっかりともっと住民の皆さんや議会とも話をしながら進めていって、そのあとに、じゃあやっぱり指定管理が良いのかということにもなりますし、そうなれば、町はもっともって負担が大きくなるわけです。その辺も議論をしていかなければいけないと思いますが、行政財産化ではなくて優良企業、ほかのプロの企業、そういう方にお任せをしたほうがいいのか、その辺はまだ決めかねていらっしゃるということなので、是非その辺を議論していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

議会からも何人かその協議会にと聞いています。皆さんのほうがかえって御存じなのではないでしょうか。私、その間の数か月おりませんでしたので、新聞報道で知った次第です。行政財産というのは、この庁舎であるとか学校であるとか、そういうものを主に指して行政財産と言いますが、それに値するのかどうか、それこそ皆さんと一緒に考えさせていただきたく存じます。よろしく願いいたします。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

ニュー・グリーンピア津南問題はやめますが、やっぱり行政財産としてなじむのか、なじまないのか。300ha ある広大な土地の管理を町がするというので、この議論には、先ほどの指定管理のことがありますけれども、指定管理の話をする前にこの行政財産になじむのかどうかというのも、町長も一緒になって考えていかなければならないと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。

続いて、病院問題です。津南病院の在り方なのですが、町長は議員時代から津南病院の在り方、この地域での医療事情について十分御理解をしておられると思っておりますが、この病院問題は喫緊の課題として、是非取り組んでいただきたいと思っています。小林前町長がお辞めになる時に、一つだけ残してほしいものがあるとおっしゃったそうです。津南病院を残してほしいというふうにおっしゃっています。なぜ慢性期病床が必要なのかということをお話したいのですが、十日町・津南地域では、ここ3年間の間に入院ベッドが256床も削減されたのです。病床削減、休止病院、閉鎖、それが次々に行われています。そして、魚沼基幹病院も看護師が確保できないために、いまだにフルオープンできない現状なのです。病床数で見ますと、この魚沼医療圏域の中で400床規模の病院が一つ無くなったということになるのです。そういうことで、十日町・津南地域のベッド数が40%も減少したなかで、本当に入院したくてもできない、そういう状況が今後生まれてくるのではないかと思います。町長、どうですか。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

病院運営審議会の昨年12回の会議の中身につきましても、この病床数ということについては、大変いろんな角度から検討をさせていただいて、62床を45床に削減することが妥当だという結論を出したわけでございまして、これは当然のことながら、栗原議員がおっしゃる将来の人口推計等も十分検討をいたして、さらに、先ほどの町長答

弁もありましたとおり、急性期、流行性の疾患がはやったような場合も含めた予備的なベッド数も勘案したなかで、45床程度が妥当ではないかという結論を出していただいたと思っております。仮に、本当に入院治療が必要な患者さんが入院ができないというような、そういう実態が今後起こり得るならば、それは当然、今の45床というのが変えられない最終目標ではございませんので、そういった状況がもし仮に出てくるとするならば、またベッド数については十分検討が必要なのだろうと思います。今の病院のベッドプラスアルファ今は老健施設ですとか、あるいは特養ですとか、そういった介護保険施設のベッド数等の状況も併せたなかで45床程度が妥当ではないという結論を出したので、そういうことで、入院治療が必要だけれどもベッドが足りなくて入院できないというような状況は、当面ないものと考えております。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

病院事務長も町長もよく御理解をされていないのではないかと思います。最近も私も何件かこういう電話をいただいています。「ベッドがなくて入院できないと言われた。点滴に通っていた。これじゃあ困る。」と、そういうケースを何件か聞いているのです。だから、45床で十分妥当だと考えていらっしゃるようですけれど、実際にそういう声が住民からあるのです。町長も含め、どうですか、病院事務長も。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

入院治療が必要で、入院をさせて入院治療を行う必要があるという判断・指示ができるのは、医師だけなわけでございますけれども、医師のそういった指示があったにもかかわらず病棟が満床でベッドが塞がっていて入院できない状況があったのか、ということにつきましては、そういった状況はなかったという認識でおります。45床にさせていただいた4月、5月、6月の状況のお話をちょっと申し上げさせていただきますと、4月1日から45床になったわけでございますけれども、4月の1か月分が累計で1,036人、1日平均34.5床という状況であります。瞬間的に病床数が一番多かったのが4月25日の42床ということでございます。5月においては、累計で1,108人、1日当たり平均35.7床で、瞬間的に多くベッドが塞がっていたのは、5月26日の42床です。6月は同じように1,107人ですので、平均36.9床、この時に一番多かったのが6月9日の43床と6月29日の43床という状況があります。7月に入りまして、まだ16日までのデータしかございませんけれども、7月4日に44床という瞬間的な病床数になっておりまして、これはその日に退院しても、その日に入院しても、そのカウントは数えられますので、病床が全く塞がって入院させられないという状況はなかったと認識しています。

議長（草津 進）

6番、栞原洋子議員。

（6番）栞原洋子

それでは、なぜ家族の方が先生からそういうふうに言われたのか分かりませんが、そういう実態が聞かれるのです。町長の耳には入っていないかもしれませんが、45床で足りるなんていうことはあり得ないと思います。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

栞原議員は、一般病床の増床や医療療養病床の復活を訴えておりますけれども、いいですか、反問いたします。反問したいのですが。

議長（草津 進）

反問を許可いたします。

町長。

町長（桑原 悠）

是非、御教授いただきたいのですが、地域包括ケア病床についてはどう思われますか。

議長（草津 進）

6番、栞原洋子議員。

（6番）栞原洋子

地域包括ケア病棟は非常に難しいことだと思うのです。それをクリアするのに。でも、地域にとって、津南病院にとって、今5床ということも考えているようですけれども、病床は必要だと考えています。

議長（草津 進）

6番、栞原洋子議員。

（6番）栞原洋子

町長は、この公設民営化、診療所化ということも以前お話がありましたけれども、では、どのくらいの規模の病院が適切なのか、そこもお願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

先ほどの答弁のとおりですが、これから津南病院で一次医療をしっかり担っていく、それから、周辺の医療資源を鑑みながらしっかり担っていく規模の適当な病院だと思っています。先ほども答弁で申し上げましたとおりです。これから地域医療構想に基づいて、津南病院が果たすべき役割に特化した病院に1日も早く進めていきたいと思っています。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

そのなかで町長は医師確保に奔走するようですけれども、医師が増えるということは、看護師もやはり同じように増やさないと。医師だけ増えて看護師が増えないということはやっていけないと思いますので、その辺もお願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

詳細は病院事務長が申し上げますが、私としましては、県立十日町病院にこれから開設される看護学校、とても期待をしております。そちらに通われる学生さん、もともと恐らく地元志向が強いのではないかと考えております。是非、そちらの学校から津南病院に来ていただけるように運動をしてみたいと考えております。とても期待しております。

議長（草津 進）

病院事務長。

病院事務長（桑原次郎）

看護師数ということにつきましては、例えば入院の場合ですと、やはり病床数が関係してきます。それから、入院基本料、10対1の看護基準を取っているのか、7対1の看護基準を取っているのか、あるいは、13対1の看護基準を取るのかということに関係が出てきます。先ほど、慢性期病床が足りないということについては、私も栗原議員の考えと同じで、結果も慢性期病床が将来推計としては足りないという結果になっています。では、なぜそういうことになってしまっているのか。急性期病床、あるいは、高度急性期が多いというようなことになってるのかということをおっしゃると、やはり診療報酬点数に非常に関係が出てきています。したがって、慢性期病床、あるいは、回復期病床を必要なベッド数にするということは、同時に慢性期病床・回復期

病床の入院基本料の診療報酬制度をしっかりと確保していかないと。病院はやはり基本的には経営が回っていかねばやっていけないわけですので、そういう点では、急性期、7対1というようなものが今の中では入院基本料が一番高く取れるし、また、看護師を一番集めやすい。したがって、大学病院だとか都市部だとか、大きな病院は7対1を取って看護師を確保できているのだけれども、そうではない地方の多くの10対1の病院には、そういったことが原因でまた看護師が不足しているといえますか、医師の偏在もありますけれども、看護師の偏在というのもそういった理由の一つになっておりますので、必要な慢性期病床をしっかりと確保するためにも、診療報酬制度の慢性期・回復期の入院基本料をしっかりと制度の中でみてあげるといようなことが同時に必要なのだろうと思っています。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

病院経営についてですが、診療報酬が付いて回ります。国の政策ですのでね。国の医療政策に沿ってやっていかねばなりませんけれども、この地域の事情をよく理解されたなかで、いかにこの町立病院が大事なのか、そここのところをしっかりと受け止めていただいて、住民の声に寄り添った町立病院をこのまま維持していただきたいと思うのです。町立、町営でやっていくことがベストだと考えています。公設民営ということも考えておられるようですけれども、町長はどういうふうに、民営化で受けてくださる病院がありますか。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

公設民営ですか。それを政策として掲げるに当たり、もちろん裏付けは取って訴えています。ですので、全く夢物語を言っているということは思っておりません。公設民営は一つの選択肢であるというふうに訴えてまいりました。ただ、行政としても地域医療はしっかりと守っていくという覚悟で進めていくことは変わりません。よろしくお願ひします。

議長（草津 進）

6番、栗原洋子議員。

（6番）栗原洋子

最後になりますけれども、新潟県の医師・看護師不足が深刻なわけですね。なかでも魚沼医療圏域は、新潟県の中で七つの医療圏域がありますが、2番目に人口当たりの医師が少ない。医師・看護師確保対策を急がなければ、更に状況が悪化するということ

とが想定されます。これは本当に喫緊の課題だと考えます。魚沼圏域では、これだけ大幅な病床削減、住民への影響が本当に出ていないのか、その辺はしっかりと当局側も含め議会側も把握していかなければならないのではないかと思います。

最後にですが、町長には、まず最優先に地域医療を守っていただきたい。病院の経営改善にも取り組んでいただきたい。公設民営ということも検討するということですが、十日町病院も当初、県立民営化を模索していましたが、受け手がなくて県立県営で行っています。そういうなかで住民に寄り添った住民のための町政を前に進めていただきたい。厳しい意見もあるかと思いますが、しっかりと頑張ってくださいと思います。最後をお願いします。

議長（草津 進）

町長。

町長（桑原 悠）

おっしゃっていただいたこと、しかと胸に刻みました。御高説賜り大変ありがとうございました。

---

議長（草津 進）

お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会いたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

—（異議なしの声）—

異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決定しました。

明日は定刻の午前 10 時に開議することとし、本日はこれにて延会いたします。

—（午後 2 時 44 分）—